発行所　東京都新宿区左門町11番地6の101
〒160－0017
社団法人　大学婦人協会
電　話　03－3358－2882
ＦＡＸ　03－3358－2889
http://www.jauw.org
E-mail:jauw@tky2.3web.ne.jp
発行人　今井けい
編集責任者　松本佳子

JAUW

おもな記事

1面　ＩＦＵＷ会長、ＪＡＵＷ会長あいさつ
2面　通常総会議事録、理事・支部長名簿
3～7面　全国セミナー、事業報告、事業計画
8、9面　守田科学研究奨励賞、国際奨学生
本部委員会・新入会員名簿、守田科学研究奨励賞・国内奨学生募集要項
10面　決算報告、予算

国際大学婦人連盟（ＩＦＵＷ）
2004年度会長書信より

国際大学婦人連盟では、年1回、各国加盟協会・連盟に会長からの書信を送っています。原文は英文ですが、本年度の書信を邦文に抄訳し、ここに掲載いたします。

ＩＦＵＷ会長　青木怜子

２００４年という新しい年が、会員皆様にとり、ご健勝で実り多い年、そして何よりも平和な年となりますようお祈り申し上げます。思えば会長就任以来、何度、世界情勢を危惧し、平和の年となるよう祈念してきたことでしょう。そして今もまた、同じ思いを込めてこの手紙を書いています。

実際、今、私たちの身近に差し迫った戦争の危機がないとしても、誰が今の世の中を平和で安全な世界だと思えるでしょうか。むしろ平和はますます遠のき、安全に対する不安は一層深刻になっていると思われます。それは暗にイラクやパレスチナといった国際間の紛争を指してのみ言っているのではありません。私たちの社会生活の中でも日常茶飯事化したように、街で、家庭で起こる非人間的な暴力や虐待、個人や集団により繰り返される残忍で卑劣な犯罪やテロ行為、インターネットでの巧妙かつ狡猾な知的犯罪、あるいは「表現の自由」の名で個人の人権を侵害しかねない、無責任なメディアの報道、国家の治安と社会秩序の名により市民の自由を拘束する国家権力など、人間としての安全保障の問題が日常生活の中で私たちを脅かしています。

この人間の安全保障が危機に晒されている時だからこそ、平和を求めるＩＦＵＷの使命が、今一層問われていると思います。平和の礎を築くためには、基本的にあらゆる人々の人権が尊重されなければならず、人権尊重の基盤を築くためには、ジェンダーの平等が社会通念として浸透されなければなりません。その手段として、ＩＦＵＷは教育の必要性を訴えています。しかも、質の高い教育こそが私たちの目的を叶えてくれるはずです。

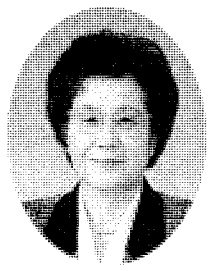
この夏、オーストラリアのパースで第28回総会が開かれます。3年に一度しかないこの総会は、私たちの使命と目的に向けての活動方針を検討する絶好の場でもあります。基調講演に予定されているヒラリー・チャールズワースさんは、まさに人権に関わる国際法の大家であり、前述の事柄に関する多くの問題点に言及されることでしょう。ビジネス・セッションやワークショップ、ＩＤセミナーほか多くの場でも、高等教育を受けたものの責務として、私たちがこの日常的な非常事態にどのように対処すべきかを討議できるものと期待しています。

パース総会では、そのほかにも連盟の規約に関わる重要な決議事項を巡って抜本的な討議を必要としています。やがて創立90年を迎えようとする連盟は、結成の目的や活動の使命など、創立以来一貫して維持してきた基本姿勢を崩すことなく、どのように、時代の変遷に適う活動ができるのか、その機構や運営のあり方を見直す時機が来ているのではないかと考えられるからです。この1世紀の間、私たちを取り巻く社会環境は著しく変化し、通信・情報・交通・住居の簡便化はもとより、雇用・教育・福祉・女性の社会進出など社会の仕組みも百年前とでは比較にならないものがあります。私たち伝統ある団体は、そのような社会の変革に見合う制度やシステムを機能化させているのでしょうか。今一度、単なるステイタスにとどまることなく、私たちＩＦＵＷの機能を検討してみる必要があるように思えます。

この1年もまた、多くのＩＦＵＷ加盟国を訪れ、その活動をつぶさに見る機会に恵まれました。オーストラリア、フィジー、アメリカ、イギリス、アイルランド、スイス、オランダ、日本と回った経験から、同じＩＦＵＷの活動方針が、あまねく実践されているのを実感し、加盟国数77カ国という数の重さだけではなく、世界に点在する私たち組織の結束の強さを痛感させられました。このまとまりをもって、世界の人々に貢献できる活動が、今後一層展開されることを願って止みません。

2期目を迎えて
―財政面での安定とさらなる発展のために

ＪＡＵＷ会長　今井けい



満開の桜が古都に美しく映える4月4日（日）、２３５人の参加者を迎えて、第47回通常総会が京都で開催されました。

最初に逝去会員のご冥福を祈って、出席者一同黙祷を捧げました。長い間ＪＡＵＷへ惜しみないご協力を賜った方々が、多数含まれておりました。

この度は、私の会長職2期目に当たり、諸般の事情が困難な中で強い緊張をおぼえています。その中で、特に次の4点を指摘しておきたいと思います。

第1に、皆様への嬉しいご報告として、「国際奨学金基金一部取り崩し」が今年2月、正式に文部科学省から承認されたということです。これで、毎年2人ずつ1人約１００万円を、海外からの研究者に差し上げることが可能になりました。ＪＡＵＷの創設に貢献されたルル・ホームズ氏の名を冠したホームズ奨学金も、国内奨学金制度の改定によって中断することなく提供できることになりました。守田科学研究奨励賞とともに、これらのいくつかの奨学金事業によってＪＡＵＷの「女性の高等教育への貢献」が、今後も安定的に継続できることを喜ばしく思います。

ＪＡＵＷのもう1つの大きな事業である国庫補助事業は、２００４年度が最後になります。イラクやパレスチナでの烈しい戦闘を思う時、私たちはあらためて平和の必要を痛感し、20余年続いたセミナーの最終回を飾るためにも、「平和」をテーマの1つにしました。さらに女性に不可欠の「平等」の問題です。2つともＪＡＵＷがさまざまな角度から取り組んできたものですが、日本のジェンダー・エンパワーメント指数（ＧＥＭ）が未だ世界第44位の低さにある時、避けて通れないテーマです。それは、「国際婦人年」以後30年間の日本の女性運動の総決算とも密接に関係したテーマとなるでしょう。

第3に、今年はＪＡＵＷがオーストラリアで開かれます。会費の値上げや会員資格の変更など、ＪＡＵＷとも深い係わりのある事項が討議されます。ＪＡＵＷの会費を値上げすることなくＩＦＵＷの値上げをどのように受けとめていくか、私たちの日常的な活動の意義を検討する中で「前向き」の解決策が得られたらと願っています。

第4に、本部と支部との交流も密にしたいと考えています。

最後に、すばらしいマリンバ演奏から始まった懇親会、行き届いたハード面での総会運営、京都ならではのツアーなどを、企画・実施してくださった京都支部の皆さまに、心からお礼申し上げます。

第47回通常総会、開会のあいさつをする今井会長　京都全日空ホテル「平安の間」にて（2004年4月4日）

第47回通常総会特集

会員の減少、今こそ問われるＪＡＵＷ存続の意味

春爛漫の京都で開かれた第47回通常総会には、全国から例年を上まわる会員が参集した。国際奨学金基金の一部取り崩しなど朗報もあったが、ＪＡＵＷは今や、財政問題など多くの課題をかかえ、その方策をめぐって、熱心に討議が重ねられた。

社団法人　大学婦人協会
第47回通常総会議事録

日　時　２００４年4月4日（日）
9時～16時30分
場　所　京都全日空ホテル「平安の間」
出席者　２３５名　委任状　７５５名
計　９９０名
出席支部　札幌・秋田・仙台・新潟・茨城・栃木・群馬・長野・東京・神奈川・静岡・愛知・岐阜・金沢・福井・京都・奈良・大阪・神戸・岡山・広島・大分・熊本・福岡　以上24支部
欠席支部　小樽・函館・福島・山口・愛媛・高知・長崎・鹿児島　以上　8支部

《午前の部》

司会　副会長　坂上栄美子

会議開始

総会成立確認
書記　海老原典子
定款第5章第32条に基づき、正会員１５６３名の1/5（312名）以上の出席（委任状提出者を含む）により、総会が成立することを確認する。

開会の辞
会長　今井けい

黙祷
逝去会員13名のご冥福を祈って、一同起立、黙祷。

議長承認
定款第5章第29条により、今井けい会長が議長となる。　承認

書記選出
本部　海老原典子・縄田眞紀子
京都支部　松田栄子・佐賀千恵美　承認

報告

1．総務
書記　縄田眞紀子
「２００３年度事業報告」参照。

2．委員会　各委員長
「２００３年度事業報告」参照。

＊規程変更
(1)(2)国内奨学金
(2)国際奨学金

＊国内ＮＧＯ委員会の報告に関連して
(1)中村道子元会長から、最近「男女共同参画社会の実現」にバックラッシュが起きているため、１９９５年開催の北京会議での行動綱領の成果、後退状況をまとめている旨の発言があった。
(2)松比良委員長から、「国際人権規約完全実施促進要望書」提出協力へのお礼があった。

3．国庫補助事業（ＪＡＵＷ全国セミナー）
企画委員長　小西　厚子
「２００３年度事業報告」参照。

4．支部　各委員長
「２００３年度事業報告」参照。
前記1～4の「２００３年度事業報告」について議長は承認を求めた。　承認

5．会計
A．一般会計
会計　小坂　順子
２００３年度収支決算並びに資産状況
「２００３年度決算資料―収支計算書・貸借対照表・正味財産増減計算書・財産目録・支部別会費状況」参照。

B．特別会計
会計　市川知恵子
国庫補助事業収支報告
「平成15年度国庫補助事業特別会計収支決算報告」参照。

監査報告
監事　静間　敏子
4月1日、根岸愛子監事とともに本部事務所において、本協会の一般会計２００３年4月1日か

ら2004年3月31日までの収支決算書、貸借対照表、正味財産増減計算書、財産目録についての監査を行った。その結果、資産の管理・運用・会計の処理ともに適正であり、正しく記録されていることを確認したので、ここに報告する。

3月25日、本部事務所において根岸愛子監事とともに平成15年度国庫補助事業特別会計について監査を行った。その結果、会計の処理が適正であり、正しく記録されていることを確認したので、ここに報告する。

（特に、会長から「国際奨学金基金取り崩し許可」に伴う貸借対照表の変更箇所の説明と臨時総会での補正予算に関連しての収支計算書の説明、及び根岸愛子監事から、会計処理のコンピューター化が進んでいる旨のコメントがあった）

一般会計、特別会計について議長は承認を求めた。　承認

《午後の部》

青木怜子IFUW会長挨拶

今年度新たにタンザニア、ブルンディ、スペインが加わり、加盟国は77カ国となったが会員数は減少傾向である。各国の状況を考慮した公平な会費納入方法に苦慮している。90年という伝統あるIFUWの活動への理解とJAUWの協力を期待したい。第28回IFUW総会へ多数出席していただきたい。

中村道子・中村ミチコ両元会長から、「IFUWの会費の値上げについて、JAUWはせめて2スイスフラン認めて欲しい。青木怜子会員をIFUW会長に推薦したJAUWは、国際社会への支援を表示する大きな責任がある」との発言があった。

審　議

議長　今井　けい

1. 新役付理事・監事の承認（会報212号参照）

当法人の理事・監事全員が2004年4月15日をもって任期満了となるため、役員選考委員会で選考の結果、新役付理事・監事として、左記の候補者を推薦する（平田宏子選考委員長）。

会　長　今井　けい（再）
副会長　田中　正子（新）
副会長　柳原由美子（新）
書　記　縄田眞紀子（再）
書　記　遠藤　理枝（新）
会　計　市川知恵子（再）
会　計　小坂　順子（再）
監　事　静間　敏子（再）
監　事　五十嵐康子（新）

議長は、新役付理事・監事の承認を議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

*新役付理事・監事の紹介

2. 新役員選考委員の承認（会報213号参照）

当法人の役員選考委員の内、中村ミチコ委員および平田宏子委員は2003年度末で任期満了になるため、新役員選考委員として、松沢美仁子会員と丸山庸子会員の2名を推薦する（平田宏子選考委員長）。

議長は、新役員選考委員の承認を議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

3. 2004年度事業計画案

A. 総　務

書記　海老原典子

「2004年度事業計画」参照。

B. 委員会　各委員長

「2004年度事業計画」参照。

(1) 企画委員会関係

2004年度国庫補助事業（全国セミナー）のテーマを「グローバルな21世紀を生きる―平和・平等・教育の視点から―」とすることに対して、活発な討論がなされた。房野桂会員から、IFUWの行動計画「変革の担い手としての女性」に採用されている「人間の安全保障」をサブタイトルに入れること、その他会員から、差別撤廃に年齢を加えたいという提案がなされた。青木IFUW会長から修正案が提出され、文言を一部変更、新企画委員会で更なる修正を試みたい。

(2) 国内NGO委員会関係（追加）

5／11「イラクに平和を！　女たちのメッセージ」　於津田ホール

C. 支　部　各支部長

「2004年度事業計画」参照。

議長は、2004年度事業計画について承認を議場に諮ったところ、満場一致で承認された。

4. 2004年度予算案（会報213号参照）

財務委員長　大森たへ子

(1) 2004年度大学婦人協会予算書（案）

(2) 4月1日～3日までの「みなし収入・支出」による運用について　承認

(3) 『2005年度の「みなし収入・支出」及び「予算案」・「事業計画案」』を2004年度内に理事会及び評議員会で審議の上承認し、3月31日までに文部科学省に提出することについて。

議長は、(3)について承認を議場に諮ったところ、承認された。

懇　談

司会　小西　厚子
坂上栄美子

1. 2004年度国庫補助事業について

企画委員長　小西　厚子

2. 2005年度以降の新事業について

会長　今井　けい

国庫補助事業は2004年度で終わるが、2004年度の全国セミナーのテーマについては、2005年度の新事業である「中東女性交流」の担当団体になったことも念頭に入れている旨の説明がなされた。

山本和代元会長、廣田京都支部長および会員からの意見など、活発な討論がなされた。

3. 国際奨学金基金取り崩しについて

会長　今井　けい

2004年1月10日開催の（社）大学婦人協会臨時総会で承認された提案に基づき、1月20日「基本財産の一部処分承認申請」を文部科学大臣河村建夫殿宛提出、2月17日、「基本財産の一部処分承認」につき、正式書面が届いた。

4. 会員資格について

会長　今井　けい

第46回（社）大学婦人協会通常総会において会員資格について1年かけて検討し、第47回通常総会で決定することを予定していたところ、第28回IFUW総会で2年以上の高等教育を受けた者とするとの提案がなされるという文書が届いた。IFUW総会の推移をみたいという支部のアンケート結果を得、会員資格に関しては、第48回通常総会まで待ちたい。

5. 名称について

会長　今井　けい

JAUWの名称についても第48回通常総会で審議することとしたい。名称に関する経緯の説明が山本和代元会長からあった。

6. 中東女性交流について

会長　今井　けい

2005年度国連NGO国内婦人委員会主催「中東女性交流」の担当団体となることに対して中村道子元会長から経過説明があった。新理事会で更なる討議を重ねたい。

7. IFUW総会について

国際委員長　柳原由美子

第28回IFUW総会において、青木怜子IFUW会長及び房野桂IFUW女性の地位委員会委員が任期満了となる。

田中正子会員を奨学金委員会委員に推薦、またIFUW project challengeに応募―「2002、2003年のセミナー『女性と情報社会』」―ほか「日本の小・中学校におけるICT教育の調査・研究」の発表など、JAUWの参加部門が多い。ぜひ出席を。

8. 若手会員育成金について

副会長　坂上栄美子

2004年度予算100万円のうち、研究会（20万円）は休み。

第28回IFUW総会への渡航費の一部として、5名へそれぞれ20万円を補助したい。

支部長からの推薦者に申請書作成手引きを送付する（5／31締切）。

9. その他

会長から、新委員長（総会出席者）の紹介と退任理事への謝辞があった。

次期総会開催地について

会長　今井　けい

第48回通常総会は、2005年4月10日、神奈川において開催する。

次期総会開催承諾の挨拶

神奈川支部長　堀　美知子

開催地支部長挨拶

京都支部長　廣田　輝子

謝　辞

仙台支部長　飯岡　絹子

閉会の辞

副会長　小西　厚子

前記の点を明確にするために、この議事録を作成し、議長および出席者代表2名が署名押印する。

2004年4月4日

社団法人　大学婦人協会
議長（会長）　今井　けい
署名人　大森たへ子
署名人　松本　佳子

各支部の事業報告、報告する京都支部長

社団法人　大学婦人協会支部長名簿（2004年度）

2004年5月31日現在

支部名	氏名	出身校	〒	住所	電話	FAX
小樽						
札幌	橋本　素子	津	005-0015	札幌市南区真駒内泉町3-10-1	011-582-9210	011-582-9210
函館	野又紀美子	東女	042-0942	函館市柏木町7-28	0138-51-7233	0138-51-7233
秋田	湊　則子	奈女	010-0903	秋田市保戸野八丁10-25	018-823-8425	
仙台	飯岡　絹子	実	984-0073	仙台市若林区荒町209	022-227-1346	022-266-0261
福島	荻原ノリ子	福島	960-8157	福島市蓬莱町6-15-17	024-548-7436	024-548-7436
新潟	登坂美江子	新潟	950-2045	新潟市五十嵐東1-3-17	025-268-2853	025-268-2853
茨城	牧野恵美子	大阪学芸	310-0851	水戸市千波町2849-24	029-241-9053	029-241-9066
栃木	友枝　純子	東女	320-0052	宇都宮市中戸祭町850	028-621-1581	028-621-1581
群馬	植原　映子	成蹊・院	371-0045	前橋市緑が丘町26-5	027-231-9431	027-231-9431
長野	三田　コト	茶	380-0901	長野市居町90-1 パークタウン707号	026-244-9105	026-244-9105
東京	佐々木澄子	東女	223-0064	横浜市港北区下田町6-20-12	045-565-2391	045-565-2391
神奈川	西村寿美子	日女	244-0003	横浜市戸塚区戸塚町4865-7 サンヴェール戸塚406	045-863-0576	045-863-0576
静岡	大塚佐枝美	奈女	420-0853	静岡市追手町10-1210	054-253-6464	054-253-6464
愛知	福永　和子	同志社	489-0886	瀬戸市萩山台5-126	0561-83-6085	0561-83-6085
岐阜	松井　恵美	津	502-0017	岐阜市長良雄総880-103	058-232-5010	058-232-5010
金沢	升村登美子	京女	920-0967	金沢市菊川1-9-6	076-231-1374	076-261-4921
福井	山田　由美	武庫女	918-8037	福井市下江守町9-26-25	0776-34-2901	0776-34-2901
京都	廣田　輝子	津	614-8363	八幡市男山吉井19－6	075-982-2922	075-982-2922
奈良	岩崎　雅美	奈女	630-8506	奈良市北魚屋西町奈良女子大学生活環境学部生活文化	0742-20-3495	
大阪	江幡　淳子	金沢・大市院	584-0073	富田林市寺池台2-16-12	0721-29-6915	0721-29-6961
神戸	八尾　佳子	同志社	658-0063	神戸市東灘区住吉山手9-5-10	078-851-2485	078-851-2485
岡山	早津　聰子	共薬	700-0089	岡山市津島本町18-2	086-254-2849	086-254-2849
広島	山手万知子	広島	731-3161	広島市安佐南区沼田町伴9145	082-848-0245	082-848-0245
山口	松岡　静子	日女	743-0001	光市室積8-3-12	0833-78-0131	0833-79-0577
愛媛						
高知						
大分	柏田　知子	九州	870-0851	大分市大石町１丁目４組	097-544-2677	097-544-2677
熊本	武宮　公子	茶	860-0862	熊本市黒髪4-8-53	096-344-4118	096-344-4118
福岡	福本美恵子	福女	816-0093	福岡市博多区那珂１丁目8-16	092-943-4574	092-943-4574
長崎	平野　啓子	日女	850-0822	長崎市愛宕3-4-23	095-828-2545	095-828-2714
鹿児島						

社団法人　大学婦人協会理事・監事名簿（2004年度）

役職名	氏名	出身校	〒	住所	電話 FAX
会長	今井　けい	津・法院	353-0006	志木市館2-3-13-801	048-473-8656
副会長	田中　正子	茶	222-0032	横浜市港北区大豆戸町414-1ヒルトップ菊名B-213	045-401-2117
副会長	柳原由美子	聖I.C.U.院	261-0013	千葉市美浜区打瀬2-17 パティオス18番街508	043-211-7637
書記	縄田眞紀子	奈女	359-0027	所沢市松郷85-39	042-946-0228
書記	遠藤　理枝	奈女	123-0842	足立区栗原4-19-5	03-3856-0880
会計	市川知恵子	実	367-0051	本庄市本庄2-7-3-114	0495-23-0241
会計	小坂　順子	日女	125-0033	葛飾区東水元1-7-12	03-3608-4864
財務	大森たへ子	津	106-0041	港区麻布台3-4-18 ホーフ麻布201	03-3582-8043
国内奨学	鷲見（すみ）八重子	津・院	225-0011	横浜市青葉区あざみ野3-4-2-302	045-903-0557 045-903-4461
国際奨学	阿部　幸子	茶	181-0001	三鷹市井の頭2-12-20	0422-45-1474 0422-48-1296
科学研究奨励	平川　暁子	東都・東京院	151-0066	渋谷区西原3-44-26-301	03-3485-9222
国際	穐田（あきた）　信子	京都	222-0013	横浜市港北区錦が丘30-9	045-431-3053
国内NGO	松比良節子	京都・院	244-0815	横浜市戸塚区下倉田町18-1 ブロードスクエア戸塚1320	045-871-0252 045-871-0727
教育	牧島悠美子	茶	305-0042	つくば市下広岡500-10	029-857-6405
女性の地位	増渕　民子	津	320-0032	宇都宮市昭和3-1-32	028-622-3922
社会福祉	林　千代	日女 東洋院	157-0061	世田谷区北烏山5-8-18-213	03-3307-9825
広報	松本　佳子	茶	216-0005	川崎市宮前区土橋3-10-7	044-852-6456 044-888-5541
会員	三浦由紀子	茶	187-0032	小平市小川町1-733	042-341-0760 042-342-0586
情報	福田　満代	奈女	177-0033	練馬区高野台1-21-6-209	03-3904-2476
東京支部	佐々木澄子	東女	223-0064	横浜市港北区下田町6-20-12	045-565-2391
監事	静間　敏子	神女	310-0851	水戸市千波町2849-7	029-241-8373
監事	五十嵐康子	津	155-0033	世田谷区代田4-33-4	03-3321-4462

《2004年度全国セミナー》
グローバルな21世紀を生きる
―平和・平等・教育の視点から―

企画委員会委員長　田中正子

大学婦人協会の全国セミナーは、1981年に、「80年代を生きる―高齢化社会を迎えて―」をテーマに行われたのが最初です。以来23年間、女性の課題を先駆的に取り上げ、全国組織の団体ならではの成果を上げてきました。この全国セミナーも国庫補助の打ち切りとともに、国庫補助事業としては今年で最後になります。

今年のテーマは、これまでの取り組みの集大成であるとともに、来年度大学婦人協会が引き受けることになっている「中東女性交流」に、セミナーの成果を反映させたいという目的もあります。

セミナーのテーマは3つの大きな柱からなっています。

第1の柱は「平和の構築」です。21世紀は、私たちの願いに反して戦争で始まりました。中東の武力紛争に日本も無縁ではいられなくなりました。私たちは、西アジアの社会、とりわけ女性や子どもの人権の状況にどれほどの理解があるでしょうか。西アジアの女性たちとどのような交流が可能でしょうか。

国際NGOとして、平和の構築に私たちにはどのような提言ができるでしょうか。

第2の柱は「平等」です。私たちは「差別」のない社会をめざしています。家庭、地域社会、学校、職場など、社会のあらゆる場で性差別の現状について、意識の面で、社会制度の面で、どのような課題があるでしょうか。また差別や人権侵害を克服するためには、どのような取り組みが可能でしょうか。

第3の柱は「教育」です。平和の構築に向けての大きな要素は教育です。学校教育の中で、生涯学習の中で、人間の安全保障を見据えた、豊かな人間性をはぐくむ教育や学習がなされているでしょうか。

20世紀後半のグローバリゼーションは、力と富の遍在を決定的なものにしましたが、一方で、人権とジェンダー平等の理念が普遍化しました。この潮流にしたがって、国も地方自治体もさまざまな制度改革を進めていますが、女性差別ひとつとっても、解消への取り組みが十分でないことは、昨年の女性差別撤廃委員会の政府レポートに対するコメントからも明らかです。

企画委員会が提示した課題にこだわらず、この3本の柱にそって自由に取り組んでください。

社団法人　大学婦人協会
2003年度事業報告
2004年度事業計画

書記　海老原典子　縄田眞紀子

総務報告

組織（2004年3月1日現在）

会員
正会員　1563名
（内本年度新入会員53名）
賛助会員　12名

理事　20名
監事　2名
役員選考委員　7名
評議員　29名
支部　32支部

事業

1. 2003年4月12日　評議員会を開催。
2. 2003年4月13日　第46回通常総会を仙台市仙台国際センターで開催。
3. 定例理事会11回、臨時理事会1回、議事内容に関しては、理事会記録として評議員（支部長）に送付し、必要に応じて、会報『JAUW』紙上で会員に報告。
4. 4月21日　「平成15年度都民税均等割申告書・均等割免除申請書」を新宿都税事務所に提出。11月14日免除申請許可。
5. 4月　2003年度若手会員育成金による研究会「女性と社会システムを考える会―代表石塚浩美」に助成金を交付。
6. 5月17日　守田科学研究奨励賞の第5回贈呈式と祝賀パーティ。受賞者2名。
7. 5月27日　「平成14年度事業報告書」を文部科学省に提出。
8. 6月　「第48回通常総会」開催地は神奈川支部に決定。
9. 6月　2003年度国際奨学生に韓国の金点姫氏を決定。
10. 8月4日　「平成15年度民間社会教育活動振興費補助金交付申請書」「平成16年度民間社会教育活動振興費補助金事業計画書」を提出。
11. 10月9日　「公益法人概況調査書」を提出。
12. 10月11・12日　文部科学省国庫補助事業2003年度全国セミナー（ヌエックにて）。
13. 11月　2004年度若手会員育成金による研究会と第28回IFUW総会出席者を募集（『JAUW』211号）。
14. 12月25日　2003年度全国セミナーの「決議事項」に基づく「要望書」を関係諸省庁・都道府県等に提出。
15. 2004年1月10日　臨時総会を開催、「国際奨学金基金一部取り崩し」と「2003年度補正収支予算」に関して（京王プラザホテル）。
16. 1月10日　「新春のつどい」（京王プラザホテル）。
17. 同日、2003年度国内奨学金・社会福祉奨学金贈呈式。
　●一般奨学生
　　大学院生　6名
　●社会福祉奨学生
　　大学院生　1名
　　学部生　1名
　●安井医学奨学生
　　1名
18. 1月20日　「国際奨学金基金一部取り崩し」に関する「基本財産の一部処分承認申請」を文部科学省に提出。
　2月17日　右、文部科学省（河村建夫文部科学大臣）より承認。
19. 2月7日　理事会で、財務委員会作成の2004年度予算案を承認（補足）。
20. 2月9日　IFUW本部へ2004年度年会費18,600スイスフラン（12スイスフラン×1,550名）を送金。
21. 3月末　「平成15年度民間社会教育活動振興費補助金実績報告書」を財団法人全国社会教育連合会に、「平成16年度民間社会教育活動振興費補助金事業計画書」を文部科学省に提出。
22. 3月末、「平成16年度事業計画書及び収支予算書」を文部科学省に提出。

逝去会員（敬称略）

逝去会員に対して、謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

佐藤　共子（津）　東京
柴田　幸（日女）　熊本
関村　祐子（日女）　秋田
内藤　利子（奈女）　京都
池内ひとみ（奈女）　神戸
石上　敏子（津）　東京
吉岡　綾子（茶）　茨城
市川　よし（日女）　京都
伊藤　俊枝（津）　東京
森永　秀子（福女）　京都
片山嘉女子（岡山）　岡山
山崎　雪子（奈女）　大阪
坂上　敏子（奈女）　大阪

委員会報告

企画委員会　小西厚子

事業報告（2003年度）

2003年度文部科学省国庫補助事業の全国セミナーを企画し、実行した。昨年度から引き続いて行った調査研究の結果から提起された諸問題については、決議事項にまとめ、要望書として関係各省庁・関係各位、支部所在の都道府県各知事に提出。詳細は、全国セミナー報告書にまとめ、平成16年3月4日に刊行した。この報告書は、関係各省庁・関係各位（男女共同参画推進本部長・内閣総理大臣、男女共同参画担当大臣・内閣官房長官、内閣府男女共同参画局長、文部科学省生涯学習局長、文部科学省男女共同参画学習課長）とJAUW会員に送付。また、この報告書を要望する機関、調査研究に協力していただいた関係機関や個人にも送付した。

1. 全国セミナー・プログラムの概要
　テーマ：「女性と情報社会―ICTは女性の未来をいかに拓くか」
　開催日：2003年10月11日（土）、12日（日）
　会場：独立行政法人　国立女性教育会館（ヌエック）
●パネルディスカッション：「ICTは女性の未来をいかに拓くか」
　パネリスト：内海房子氏（NECソフト（株）執行役員）、来住伸子氏（津田塾大学助教授）、宮本節子氏（姫路工業大学助教授）、速水智子会員（プラネット・システム（有）代表）
　コーディネーター：今井けい会長
●研究発表：女性の地位・教育・国際・社会福祉委員会、奈良・静岡・愛知・東京・茨城・新潟・神戸・岡山・神奈川支部、女性と社会システムを考える会
●情報交換コーナー：PC（パソコン）体験。
●分科会：1.「ICTと女性の職域拡大」
　2.「ICTと情報リテラシー」
　3.「ICTと教育―男女平等教育の視点で」
●全体討議

2. 企画の経緯
◎文部科学省関係
　3月31日　国庫補助金申請のため「事業計画書」を提出。
　7月30日　国庫補助金1、291、000円の内示通知。
　8月4日　国庫補助金交付申請書の提出。
　3月末　実績報告書提出。
◎企画委員会：7回。
　第1回（2月）　セミナーの会場・開催日程の確認、テーマと企画案の検討。
　第2回（3月）　テーマ・プログラム（案）を検討決定。4月通常総会でセミナー準備会開催を決定。
　第3回（4月）　パネルディスカッションのテーマ・パネリスト候補者の検討。
　第4回（5月）　発表形式等の検討。
　第5回（6月）　プログラム・時程案の検討。
　第6回（7月）　企画・実行委員の役割分担の決定。
　第7回（9月）　プログラムの確定。
◎企画・実行合同委員会：3回。

3. 参加者数
　来賓……2名
　パネリスト：4名
　会員……152名
　一般……7名
　職員……1名
　166名

4. 企画委員・実行委員氏名（50音順）

企画委員
今井　けい（会長）
小西　厚子（企画委員長）
坂上栄美子（実行委員長）
井口美登利（企画副委員長）
秋月　薫　市川知恵子
海老根静江　海老原典子
遠藤　理枝　大森たへ子
窪田　憲子　小坂　順子
島　美喜子　鈴木　光子
縄田眞紀子　橋本　慶子
増渕　民子　松比良節子
松本　佳子　三浦由紀子
宮島　茂子　柳原由美子

実行委員
伊藤智恵子　遠藤加奈子
大谷　幸子　岡部　佳世
片柳　洋子　加藤　恭子
黒川　花子　桑折　美子
後藤　晶子　斉藤加代子
佐々木澄子　高田　素子
仲沢　史子　長谷川千恵子
平川　敦子　平野　和子
福田　文子　福田　満代
藤谷　紀子　細田　照子
三森　武藤亜希子
村田　鈴子　望月　浪江
百束　礼子　山崎　邦子
横橋　貴子　吉村　光代

事業計画（2004年度）

2004年度の全国セミナーのテーマは、「グローバルな21世紀を生きる―平和・平等・教育の視点から―」とする。

長期にわたるイスラエルとパレスチナ間の紛争に加えて、9・11同時多発テロとその後のイラク戦争は、21世紀を再び「戦争の世紀」とした。今年のセミナーでは、国際NGOの立場から、平和と平等の問題を教育を通して検討する。特に異文化に対する無理解が差別と支配を生み、やがて紛争の温床になる点に注目し、対等な立場での異文化理解―例えば今回は西アジアの社会と文化の調査・研究―に取り組む。

国内の平和と平等については、DV、青少年犯罪など、社会・地域・家庭にはびこるあらゆる暴力からの安全の確保の問題、あるいは依然として存在し続ける政治・社会・雇用・性などにおける差別撤廃の障害は何かを検討し、それら障害を取り除くための方策の提案をはかる。

第47回通常総会開催支部報告

京都支部長　廣田輝子

第47回通常総会は京都全日空ホテルで開催されました。17年前の通常総会は雪の比叡山でしたが、今回は桜の二条城を、全国からお集まりいただいた会員の皆様にお見せすることができました。

総会に先立って開かれた懇親会には185名の会員のご出席をいただき、京都市出身のマリンバ奏者通崎睦美さんとそのグループ3名による演奏を楽しみました。京都支部会員手作りのお手玉で童心にかえって遊ぶひとときもございました。

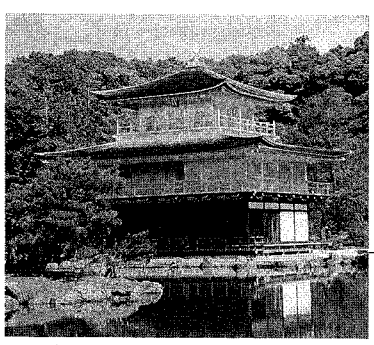
明けて4日、出席者数235名をもって通常総会が開かれました。今年は8月にIFUW総会が開かれる年であり、国庫補助を受けて行われるセミナーの最後の年でもあります。IFUW総会では、懸案の会員資格と名称について最終結論が出されます。国庫補助打ち切りに伴い、来年度からのセミナーも再検討が必要とされています。ひっ迫した財政状態の中で、国際奨学金基金の取り崩しが報告されました。いろいろな意味で、社団法人大学婦人協会は大きな曲がり角に来ていると感じます。

支部長懇談会では、各支部が抱えている問題が話し合われました。出席支部24、アンケートのみの参加2支部でした。高齢化と会員減少に悩む支部が多く、会員増加のためのアイデアやプロジェクトを考える動きがあることも確かですが、各支部がそれぞれの現実と真剣に向き合う必要があると痛切に感じます。

総会後の夕食会では、立命館大学講師真下美弥子氏の講演「花の都のファンタジー・京都堀川あたり」を聞いて京都の雰囲気に浸り、バイキングの後は、二条城のライトアップに出かけ夜桜見物で春の宵を楽しみました。

5日は、満開の桜と共に絶好の見学会日和でした。当初設定した3つのコースのうち、人気が集中した第2と第3のコースが制限人数を大幅に上回って実施されました。200年ぶりの大改修が行われている西本願寺では、大瓦に触り200年先を思い、光悦寺では一服のお茶をいただいて、天才光悦の多才な芸術活動を偲んでいただけたでしょうか。

最後に、今回の総会の準備にあたり、京都支部会員の積み重ねられた経験や、多様な才能が大きな力となったことをご報告しておきます。


まばゆい姿を池に映す金閣寺（見学会）

財務委員会　大森たへ子

事業報告（2003年度）

1. 委員会活動

●委員会開催　年11回

●2004年度予算案作成

●研修旅行　秩父・相田みつおギャラリー見学、三峯神社参拝。

●会員懇親会

新春のつどい「奨学金贈呈式」（1月10日、118名参加）

観劇：国立劇場（文楽、歌舞伎）、新橋演舞場、帝劇、三越劇場　ほか（年10回）

コンサート、オペラ：月1回

スポーツ愛好会：ランプの会（ゴルフ）　年2回

●バザー開催　年4回（全国総会、東京支部総会、全国セミナー、新春のつどい）

2. 寄付状況（2004年3月25日現在）

寄付金総額

1、670、000円

a. 寄付金（敬称略）

389、982円

○アダチ財団

82、500円

○シロカネ

14、000円

○群馬支部

20、000円

○会員による現金寄付

233、415円

○丸大食品

38、167円

b. 活動その他による寄付

1、280、012円

○バスツアー

262、915円

○国際LEO協会寄贈品

12、000円

○観劇会

391、160円

○ランプの会

60、000円

○会員寄贈品による（バザー）217、531円

○雑貨販売（バザー）

236、186円

○新春のつどい

100、220円

c. 利息

6円

本部へ（2004年2月29日まで）入金。

1、670、000円

事業計画（2004年度）

1. 2005年度予算案作成。

2. 勉強会、講演会、見学会（バス使用）。

3. 会員懇親会（新春のつどい、観劇会、スポーツ愛好会）。

4. バザー開催（総会など年4回）。

国内奨学委員会　海老根静江

事業報告（2003年度）

5月　理事会で第56回一般奨学生（本年度より対象は大学院生のみ）6名、1名につき20万円、（10万円は東京支部の寄付による）第13回安井医学奨学生1名、30万円の募集と締切日を9月10日とすることを決定。

6月　募集要項書類を東京都、千葉県、埼玉県内の63大学と琉球大学学長宛、28支部長宛に発送。会報210号に「奨学生募集要項」、ホームページに募集の記事を掲載。

9月　応募者リストを作成。

応募者数：一般奨学生44名、安井医学奨学生6名。

10月　選考委員会開催。委員全員の評価、慎重審議の結果、一般奨学生（大学院生）6名、安井医学奨学生1名の奨学生候補者を選出。

11月　理事会の承認を得、社会福祉委員長とともに選考結果を応募学生、大学学長、支部長に通知。委員会でホームズ奨学金、今年度より実施の「研究成果報告書」、奨学金規程の改正について協議し、これまでの奨学生の名簿作成の分担を決めた。

1月　「新春のつどい」で国内奨学金贈呈式。奨学生4名出席。

同日の理事会で現行の「ホームズ奨学金」を廃止し、一般奨学生のうち女性、教育、国際協力の研究を行っている奨学生1名を「ホームズ奨学生」とする委員会案を提出、承認された。

2月　会報212号（選考結果および奨学生の小論文掲載）を奨学生、応募大学学長宛に郵送。

理事会に「国内奨学金規程」の改正案を提出、承認された。

3月　奨学生名簿完成（予定）。

事業報告（2003年度）

4月　応募締切。インド2名、エジプト、韓国、スリランカ、トルコ、バングラデシュ、フィリピン、ブルガリアから各1名、計9名。

5月　選考委員会で2003年～2004年の奨学生に、韓国の金点姫（キム・ジョムヒ）氏を選出。奨学金60万円。東京大学医学研究科病因・病理学博士課程で、脳の記憶について研究。

9月　委員会で、国際奨学金基金の現状、今後の方針などについて検討。翌年度の奨学金の額を60万円から100万円とし理事会の承認を得た。

10月　募集要項をIFUW及びその加盟国に発送。

3月　本年度奨学生金点姫氏の報告会（アルカディア市ヶ谷にて東京支部との共催）。

その他、IFUW及び各国の奨学金募集を紹介し、多数の国内外からの問い合わせに応じた。

事業計画（2004年度）

前年度に引き続き、IFUW加盟国会員を対象として国外から1名か2名の研究者を招き、奨学金を授与。奨学金の額を2004年度は60万円～100万円とすることを理事会で決定、他の要項は前年度と同様。

国際奨学委員会　宮島茂子

事業報告（2003年度）

1. 第57回一般奨学生（ホームズ奨学生を含む）の募集、選考。

2. 第14回安井医学奨学金の募集、選考。

3. 2003年度奨学生の「研究成果報告書」回収。

4. 2004年度国内奨学金贈呈式の準備。

通常総会会場風景（4月4日）

事業計画（2004年度）

1. 第5回守田科学研究奨励賞の贈呈式、受賞講演、祝賀パーティ（5月17日）。

受賞者

増子佳世博士　聖マリアンナ医科大学難病治療センター助手（リウマチ学）

村松加奈子博士　奈良女子大学共生科学研究センター助教授（自然情報学）

2. 第6回受賞候補者の募集要項の公示：会報210号、学会誌（17学会）への掲載依頼、大学宛（35校）への推薦依頼。新聞社への掲載依頼。

応募受付締切：12月1日

3. 第3回自然科学講演会（12月13日）お茶の水女子大学にて（東京支部・お茶の水女子大学と共催）。

「自然現象の中での秩序と無秩序―科学史から見たエントロピー」　八木江里委員

4. 第6回受賞候補者選考委員会（2月）、2名を内定。応募者に選考結果を通知（3月）。

科学研究奨励委員会　島美喜子

事業報告（2003年度）

1. 第6回守田科学研究奨励賞の贈呈式を5月8日にアルカディア市ヶ谷で開催。

2. 第7回賞受賞候補者募集要項の公示：JAUW会報214号（6月）に掲載、募集要項の掲載を学会誌、新聞社に、また候補者の推薦を大学に依頼。

3. 第4回自然科学講演会を11月頃に開催。

4. 第7回受賞候補者の選考委員会を2005年2月に開催。

5. 3月上旬に第7回受賞者を内定、応募者に選考結果を通知。

国際委員会　柳原由美子

事業報告（2003年度）

1. IFUW関係

(1) IFUWより送付の回状、国連代表報告、IFUW Newsなどを必要に応じて要訳し、理事会、各支部長、あるいは一般会員に配布。

(2) IFUW定款と内規の改定案についてのコメントの送付。

(3) 田中正子会員を2004～2007年IFUW奨学委員会委員として推薦することを理事会で承認後、その旨をIFUW本部に送付。

(4) 2004年度分のIFUW会費1、550名分を納入。

(5) 2002、2003年度JAUWセミナー「女性と情報社会」の結果をまとめて、「IFUWプロジェクト・チャレンジ」に応募。

(6) ビーナロイ・パートナーシップの寄付金として、5万円（トルコへ3万円、ロシアへ2万円）を拠出。

2. 全国セミナーにおける調査研究の実施と発表

(1) 「外国におけるICT教育に関する事例調査」を行うことに決定し、研究小委員会を結成（4、5月）。

(2) 事例調査用アンケートを作成、添付メールで世界へ送付（6月）。

(3) アンケートの回収、分析（8、9月）。

(4) 全国セミナーで発表（10月）。

(5) 第28回IFUW総会ワークショップに「ICT Education in Japan」として申し込む。また、岡山支部の眞邉委員（当時、箕島小学校校長）の発表を、日本の小学校の一事例として紹介する（11月）。

(6) アンケート回答者へのフィードバック資料を作成、送付（12、1月）。

(7) ワークショップ用アンケートを作成、送付（1月）。

3. その他

(1) IFUW Newsの翻訳についての再考（デジタル化して国際委員会HPへ掲載）など。

(2) クリスマスと新年のご挨拶メールをIFUW nfa-leaders netに掲載など。

●定例委員会6回、小委員会8回。

事業計画（2004年度）

1. IFUW本部より来信する回状、IFUW Newsなどの文書を必要に応じて翻訳し、適宜配布。またIFUW本部の要請に応じて必要な事務処理など緊密な連絡活動。

2. JAUWの主な活動内容をIFUW本部に報告。

3. 第28回IFUW総会に関する連絡業務。

4. 総会のワークショップに国際委員会として参加（「ICT Education in Japan」）。

5. UWAとの連絡業務。

6. IFUW加盟のNFAに関する連絡業務。

7. JAUW会員が外国を訪問する際に、当該地のNFAへの紹介業務。

国内NGO委員会　松比良節子

事業報告（2003年度）

1のみJAUWの活動であり、2・3・4はJAUWが加盟するNGOでの活動である。

1. 国内NGO委員会

年間10回の定例委員会。毎月、委員長報告（理事会・企画委員会・連絡会関係）と分野別担当委員の報告を情報交換し、当月の課題を協議。

●6月、白井典子弁護士による裁判員制度に関する学習会。

●7月、丸山庸子特別委員による、「小金井市男女平等参画条例その後」について。

●9月　連絡会常任委員会報告。年金プロジェクト要望書についてほか、各委員会報告など。

●11月　HPのあり方について協議。

●12月　連絡会集会

●1月　集会決議文の確認。中東女性交流について。（その他の活動は省略）

2. 国連NGO国内婦人委会

役員会：年間4回、総会：7月　国連総会NGO代表の決定。

「国連総会政府代表ステートメントに盛り込むべき内容」文案の承認。

第58回国連総会報告会：1月、外務省国際協力部長石川氏、房野政府代表代理による報告。

中東女性交流：10月　婦人（各国連盟・協会）より会員来日の際の接待。

2月　ヨルダン、エジプト、パレスチナより6名来日、意見交換会（日本女子大にて）、広島市で公開フォーラム（広島支部13名協力）。

3. 国際人権規約完全実施促進連絡会議

12月の人権デーまでに国際人権規約の完全実施に向けて、諸官庁に要望書を作成・提出し、今後の見通しについて懇談するための活動。執筆は加盟団体が分担。会合11回。

6月　総会と学習会　住民基本台帳ネットワークについて。

7～9月　要望文の検討・協議。

10月　「『市民的及び政治的権利に関する国際規約』第5回政府報告書についての意見募集」に対応し意見を提出。

12月　提出した要望書に関して4つの省庁（外務・文科・法務・厚労）を訪問・懇談。

4. 国際婦人年連絡会常任委員会

総会準備ほか数回。

全体会

4月　第47回婦人の地位委員会報告（房野）、女子差別撤廃委員会への提出レポートについて。

9月　国連第29回女子差別撤廃委員会を傍聴して。

12月に選択議定書批准促進集会を決定。

総　会：5月

学習会：6月　裁判員制度について（日弁連・大国氏ほか）。

集　会：12月10日　「女子差別撤廃条約選択議定書」批准促進集会―男女平等と平和を求めて―約180名参加、採択された決議文は内閣府へ持参。

年金プロジェクト：家族福祉・労働委員会を中心に会合6回。「年金制度改革に向けての要望書」を作成。厚生労働大臣と社会保障審議会年金部会長に提出ほか。

請願署名活動：2月より「女子差別撤廃条約選択議定書批准促進」の署名を加入団体すべてと取り組む（JAUWは支部・委員会より170枚）。

〔分野別委員会〕

政策方針・参画

●自治体の新たに成立した男女共同参画条例を検討。

●衆議院選挙に当たり、各政党の女性政策に対するアンケートを実施、その回答を集計・提示。

●女子差別撤廃条約選択議定書の批准促進署名活動を企画・提案。

教育・マスメディア

●教育基本法に対する要望書。

●教科書改訂に当たっての要望書を文科省と教科書会社へ。

●「こころのノート」全4冊の検討→「『こころのノート』を道徳の補助教材として使用しないことを求める要望書」。

●「男女の描き方に関する手引書」（内閣府）の検討→「公的広報のためのこまかいガイドラインを作ることを求める要望書」、ほか。

平和（環境開発）

提出要望書「有事法制関連3法案の廃案を求めるアピール」5月、「自衛隊の海外派遣に反対します」7月、「イラクへの自衛隊派遣の中止を求めます」11月ほか。

環境・開発部会：地球環境に関する諸問題点を整理して積極的に提言する（水基本法・水の民営化・食料のグローバル化・化学物質審査規制法案など）

・ヨハネスブルクサミットで日本政府が提案し、国連総会で採択された「持続可能な開発のための教育の10年」の国内での活動に参加する。

家族・福祉

●5月、総会に「『少子化対策基本法』についての意見」を提出、要望書とする。

●税制学習会（相続税・贈与税改正、配偶者特別控除の廃止など）

●10月以降、女子差別撤廃条約実施状況報告に対する最終コメントについて学習。12月集会に向けた取り組み等。

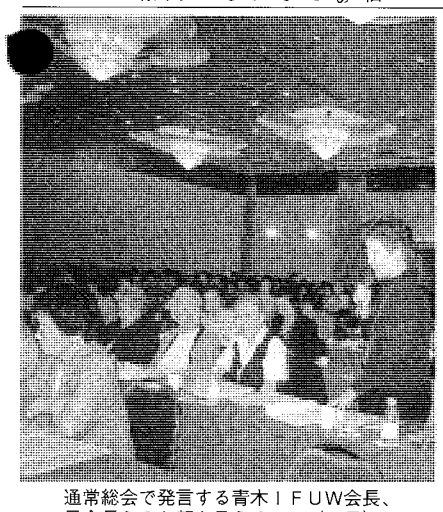
労　働

●「労働基準法・労働者派遣法『改正』法案に対する要望書」を5月末提出。

●「パート労働者の雇用管理の指針」改正案の検討。

●8月、労働基準局長他通達「『事業主が講ずべき短時間労働者の雇用管理の改善のための措置に関する指針』の一部改正」について。

●12月集会に向け、「女子差別撤廃委最終コメントを受け止める運動を」。


通常総会で発言する青木IFUW会長、元会長らのお顔も見える……（4日）

ユニフェム東京

7月　ユニフェム国内委員会創設10周年記念シンポジウム。記念講演「私の仕事―難民と歩んだ10年」緒方貞子氏、ほか年間行事多数。

事業計画（2004年度）

1. 3つの所属団体（国連NGO国内婦人委員会、国際人権規約完全実施促進連絡会、国際婦人年連絡会）と連携して活動、その成果をJAUWの活動の中に生かすように努める。

2. 右を実現するため、他の委員会や支部、一般会員に情報の周知を心がけ、一層の協力を得る。

3. 2005年度に国連NGO国内婦人委員会主催「中東女性交流」の担当団体となるため、多方面の理事、支部、会員の協力を得て、よりよい交流を実現するべく努力する。

教育委員会　橋本慶子

事業報告（2003年度）
1. 委員会開催（8回）
主として全国セミナー発表関係とセミナー用パンフレット「メディアに見る女の子像・男の子像」作成およびワークショップに関して。
2. 全国セミナー研究発表で「ICTとジェンダー教育―ジェンダーの視点によるメディア・リテラシー教育実践に向けて」
3. ワークショップ（4回）
藤沢市、川崎市で。
テーマ：「入門者のためのメディア・リテラシー」、「夫との対等なパートナーシップはできていますか？『家事・子育て・介護』に見る主婦の立場を考えよう」、「メディアの中の女性」、「メディアの中の男女の役割分担」
対象：県下高校生、成人女性。
（座間市男女共同参画プラン推進協議会発行の情報誌『あくしゅ』に関連記事掲載）
4. 「留学生と日本文化を学ぶ会」（8回）
歌舞伎、琳派作品鑑賞とお茶の会、ハンガリーの話と折り紙など。
留学生延べ85名、協力会員延べ246名参加。
事業計画（2004年度）
●全国セミナーのテーマを受けて研究発表を行う。
●「留学生と日本文化を学ぶ会」年度内数回の開催を予定。

女性の地位委員会　増渕民子

事業報告（2003年度）
1. 定例委員会（9回）
他に、メール会議（メール・ファックスによる意見交換）。
2. 勉強会
パワーポイント講習会（9月）受講。
第58回国連総会報告会（1月）に出席。
中村道子会員（元JAUW会長、国連総会日本政府代表代理、前国際婦人年連絡会世話人、その他を歴任）を囲む会（3月11日）。
3. 全国セミナーで発表。
「ICT関連企業における女性の能力開発と地位向上」
調査対象者：ICT関連企業に勤務する女性740名
（お茶の水女子大学、津田塾大学、東京女子大学、日本女子大学、獨協大学の大学関係者及び同窓会等の協力により調査対象者選定）
協力支部：奈良支部、福岡支部
事業計画（2004年度）
女性の地位向上を目的とする調査・研究と活動をする。

社会福祉委員会　鈴木光子

事業報告（2003年度）
1. 社会福祉奨学金の贈呈。
大学院生1名、学部生1名（1月10日、「新春のつどい」）。
国内奨学委員会の規程改正に伴い、2003年度より大学院生1名20万円、学部生1名10万円で贈呈する（大学院生の応募がない時は、学部生3名に贈呈）。
2. 全国セミナーでの研究発表。「ICT関連機器の普及と現状（障害者の生活との関連について）」
3. 発表に関連する施設を見学（社会福祉法人日本盲人職能開発センター、神奈川県立平塚盲学校、東京都人権啓発センター普及情報課、中央障害者雇用情報センター）。
4. 委員会（9回）
小委員会（9回）全国セミナー準備のため。
事業計画（2004年度）
1. 社会福祉奨学生の募集、選考及び奨学金の贈呈。
2. 新年度委員会において決定。

広報委員会　松本佳子

事業報告（2003年度）
○会報『JAUW』発行（4回）
本年度の当協会の事業と活動の報告などを編集し、会員と関係諸機関に発送。
210号（10頁）2003年6月25日発行、各支部宛送付。
211号（4頁）2003年11月25日発行、各会員宛送付。
212号（6頁）2004年2月1日発行、各支部宛送付。
213号（2頁）2004年3月1日発行、各会員宛送付。
○全国セミナー報告書作成と発送に、全面的に協力。
事業計画（2004年度）
会報『JAUW』（214号～217号）発行予定。

会員委員会　秋月薫

事業報告（2003年度）
1. 会員の現状把握。
2. 会費納入の推進。
3. 会員の増強。
4. 「サロンJ」を開催（事務所）。
第14回（6月）「すべての人にやさしいユニバーサルデザイン」高岡眞佐子会員
第15回（11月）「書を楽しもう」端本和子会員
第16回（2月）「裁判員制度について」白井典子会員
5. お祝いのはがきを出す。
卒寿、米寿、傘寿の方に誕生日に合わせて手作りで。
6. 会員資格について、支部・委員会の意見を聞き、まとめる。
その他　リーフレット作成、名簿の打ち出し。
事業計画（2004年度）
1. 会員の現状把握。
2. 会費納入の推進。
3. 会員の増強。
4. 年、3回くらい「サロンJ」を開催予定。
5. お祝いのはがき（卒寿、米寿、傘寿）を出す。

情報委員会　井口美登利

事業報告（2003年度）
1. MLにより支部情報担当委員に理事会報告（理事会終了後2日以内）。
2. 新ドメイン名（jauw.org）取得（7月）。
3. セミナー参加（PP発表準備）
4. 会員向けPC基礎講習（5回）。
5. HPに関する意見交換・実技研修（8回）。
6. 文部科学省「公益法人ディスクロージャーの充実」への回答の一部、ホームページに理事・監事名を掲載（理事会承認後）。
事業計画（2004年度）
1. 会員向けPC講習会。
2. MLの拡大により通信費削減。
3. ICT関連会議参加。
4. HPにより会員獲得。
ML：メーリングリスト
PC：パソコン
HP：ホームページ

支部報告

※各支部の通常総会・全国セミナー出席の報告は省略します。

小樽支部

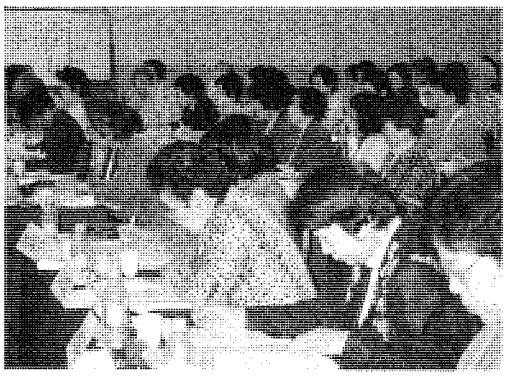
札幌支部

会員数　42名
支部会費　2500円
事業報告（2003年度）
4月19日　支部総会
5月　役員会（計6回）
5月　本部ホームページに札幌支部情報掲載。
6月　講演「今ここに命あり」朝日幸世会員
自然・文化・歴史を訪ねる会　2回（7・10月）
9月　懇親会
11月　講演「日本と韓国の女性政策」庄司智恵会員
ミニ・バザー
1月　新年会
1月　パステル画作品展
1月　「子供の多言語教育―その苦労と喜び」マゴジャータ・ザヨンチさん
2月　「私の小さな国際交流」野田豊子会員
〈その他〉
各委員会活動
●財務（古典輪読会・かな書道講座・俳句同好会）
●国際（英文雑誌を読む会）
●女性
●報道（ミニ・ニュース発行　年4回）
●文化（自然・文化・歴史を訪ねる会、パステル画を描く会）
事業計画（2004年度）
1. 各委員会担当による例会・各講座などの継続。
2. ミニ・ニュースの発行。
3. その他支部総会で。

函館支部

荒田　絢子

会員数　9名
支部会費　4000円
事業報告（2003年度）
5月18日　支部総会
目標：（高齢社会についてデータを集め、その中での生き方について考えよう）
7月　地方自治体及び民間の、高齢者を対象とした施設や政策についてデータを検討。
11月　函館市郊外「旭ヶ丘の家」訪問（介護老人福祉施設）。



総会会場風景、前列は各支部長。会員減少に悩む支部が多い。近隣支部との交流も盛んになり、会員増強のための動きが多く見られた。

事業計画（2004年度）
1. 各委員会担当による例会・各講座などの継続。
2. ミニ・ニュースの発行。
3. その他支部総会で。
〈その他〉
●国際（英文雑誌を読む会）
●女性
●報道（ミニ・ニュース発行　年4回）
●文化（自然・文化・歴史を訪ねる会、パステル画を描く会）
1月　新年会
3月　年度反省、次年度役員改選。
事業計画（2004年度）
1. 支部総会（5月）
2. 例会（7・9・11月）
3. 新年懇親会（1月）
4. 反省とまとめ（3月）

秋田支部

湊　則子

会員数　21名
支部会費　2000円
事業報告（2003年度）
5月31日　支部総会
9月　高齢会員に絵葉書送付。
9月　入会希望者に会報『JAUW』など資料郵送。
11月　叙勲会員に祝電。
11月　支部研修会
講演「ことばへのこだわりを大切に」～思いを受け止め伝えるために～
講師　中川富雄氏（NHK秋田放送局放送部副部長）一般公開
1月　支部会（懇親会）
3月『支部会報12号』発行。
〈その他〉
6月　国内奨学生募集要項を県内3大学に送付。
10月　支部研修会について報道機関や他団体へPR
〈他団体との活動・交流〉
●津田塾大学同窓会秋田支部公開講座に参加。
●ハーモニーネット参加。
●婦人会館関係
●研修会・講座・セミナー
事業計画（2004年度）
1. 支部総会
2. 研修会
3. 親睦会
4. 支部会報13号発行
5. 他団体との交流・協力・その他

仙台支部

飯岡　絹子

会員数　32名
支部会費　3000円
事業報告（2003年度）
4月　通常総会準備会（2回）
4月12日　臨時理事会　評議委員会、支部長会議懇親会（仙台プラザホテル）
4月13日　JAUW第46回通常総会（仙台国際センター）
夜会食・松島一の坊泊
4月14日　見学会
5月　例会　本部総会経過報告　会計報告
6月16日　第8回支部総会役員会（6・8・9月）
10月　移動見学会「福島県美術館」
例会　講演会（11・12・1月）
東北6県の美術館めぐり（福島県から）
〈その他〉
●読書会　4回
●宮城県各種女性団体連絡協議会行事参加（19団体）。
●（財）せんだい男女共同参画財団行事参加。
事業計画（2004年度）
1. 総会・役員会・例会（4、5回）・読書会
2. 講演会・見学会
3. 宮城県各種女性団体連絡協議会行事参加。
4. （財）せんだい男女共同参画財団行事参加。

福島支部

荻原ノリ子

会員数　2名
支部会費　2000円
事業報告（2003年度）
11月　新入会員を1名迎える。
第1回支部定例委員会、研究会（JAUW定款説明、全国セミナーの検討、子どもの現状と教育基本法改正問題を考える）
12月　会報（211号）を県・市教育委員会、県内各大学へ送付。
12月　第2回支部定例委員会、研究会
事業計画（2004年度）
1. 支部総会（4月）
2. 定例委員会、研究会（月1回）
3. 会員拡大活動（5、11月）
4. 全国セミナー参加。

新潟支部

登坂美江子

会員数　88名
支部会費　2000円
事業報告（2003年度）
4月26日　支部総会
5月　講演「女性が働き続けていくために―ポジティブ・アクションとセクシュアル・ハラスメントの現状」
講師　志賀加代子さん（新潟労働局雇用均等室長）
6月　講演「女が語る時―女性作家の作品に潜むもの」
講師　矢口裕子さん（国際情報大学情報文化学科講師）
7・9月　全国セミナーの検討。
8月　新潟市消費者協会主催不用品交換会に参加。
9月　ベトナム女子学生2名に奨学金贈呈。（ホーチミン市）
10月11・12日　全国セミナーに参加、発表。
「情報リテラシー格差の克服と社会参加―40代女性を中心として」
10月　親睦旅行
「現代アートと伝説と薬湯の旅」松之山温泉を訪ねて。
10月　「女性フォーラムinにいがた2003」に参加。「女性の情報リテラシー格差を探る」研究成果を展示発表。
11月　講演「アジアと日本」―アジアから来た在日女性の当面する問題―
講師　須田麗子さん（国際交流ボランティア相談員）
12月13日　第54回奨学賞を贈るつどい・忘年会
受賞者4名
1月　講演「アジアと日本」―中国の現状について―
講師　李　衛強さん（弁護士会通訳）
2月　反省会
〈その他〉
●役員会10回、研究部会6回、その他部会担当者打ち合わせ数回。
〈他団体との活動・交流〉
●新潟県女性財団、市消費者協会、にいがた女性会議、市国際交流協会、ほか。
事業計画（2004年度）
1. 支部総会（4月）
2. 例会（9回）
3. 奨学賞を贈るつどい、親睦旅行など。

茨城支部

牧野恵美子

会員数　65名
支部会費　2000円
事業報告（2003年度）
4月『支部だより2003―2』発行（年6回）
4月26日　支部総会
特別講話「ブラジルで日本語教育を体験して」藤井美治子氏（元支部役員）
5月　定例会
①講話と懇談「県議会こぼれ話」長谷川典子会員（茨城県議会議員）
②全国セミナーに向けて講話と実演
「ネット上の掲示板やチャットなどの現状と課題」
講師　秋谷立子氏（プラネット・システム）
6・7月　「IT活用講座2003―1」開催。
7月　公開シンポジウム
「ネット社会とわたし―IT化による優しさの実現に向けて―」
①基調講演Ⅰ「情報の取捨選択、法律的な知識と知恵」
講師　須田裕之氏（茨城県企画部情報政策課IT推進室長）
②基調講演Ⅱ「ハイテク犯罪の現状と課題」
講師　宍戸一也氏（茨城県警察本部）
9月　定例会
「IT化による優しさの実現に向けて―どんな社会へ、そして何ができるか」
10月　施設見学「茨城福祉工場」
10月11・12日　全国セミナーで発表（安久子会員）。
11月　定例会・音楽鑑賞
「諏訪内晶子とシンシナティ交響楽団の演奏会」
1月　新年会
特別講話「これからの茨城県域デジタルテレビ放送」
講師　穴沢勝氏（NHK水戸放送局放送部長）
1月・2月「IT活用講座2003―2」開催。
3月　特別講話「日本中世における熊野信仰」
講師　山本亜衣子さん（国内奨学生　筑波大学院生）
〈その他〉
●役員会、打ち合わせ会議
●全国セミナーに向けてプロジェクトチームによる検討会。
〈他団体との活動・交流〉
●茨城県女性団体連盟関連
●茨城県婦人会館関連
事業計画（2004年度）
1. 支部総会
2. 定例会の開催（奇数月）
3. 支部だよりの発行。
4. その他目的に応じた事業。
〈他団体との共催・協力・参加事業〉
1. 茨城県女性団体連盟の構成団体としての事業。
2. 茨城県婦人会館の構成団体としての事業。
3. 茨城県が主催する事業で、支部の活動目的にかなった事業。

栃木支部

友枝　純子

会員数　40名
支部会費　1000円
事業報告（2003年度）
7月13日　支部総会
10月　支部奨学賞選考会
11月8日　支部奨学賞贈呈式
受賞者5名（宇都宮・筑波・獨協・福島・群馬大学各1名。県内の高校卒業者で優秀な成績で大学に進学し在学中の者）
2月　新年会
事業計画（2004年度）
6月　支部総会
10月　支部奨学生選考会
11月　支部奨学賞贈呈式
2月　支部新年会

群馬支部

植原　映子

会員数　10名
支部会費　1000円

事業報告（2003年度）
6月14・15日　長野・群馬・栃木懇親会（於：軽井沢）
7月20日　支部総会
2月　新年会（兼 来年度の活動を考える会）
事業計画（2004年度）
6月　軽井沢自然探索会（兼三県懇親会）
2月　新年会（兼1年の活動報告会）

長野支部
三田　コト
会員数　13名
支部会費　1000円
事業報告（2003年度）
6月8日　支部総会
6月　見学と話し合い「高齢者の住まいと生活・地域の中で」
徳田宅（長野市風間）を見学。
1月　全国セミナー報告会、新年会
3月　「高齢者の生き方から学ぶ」聞き取り。
〈その他〉
●役員会4回
〈他団体との活動・交流〉
10月　「ノルウェーオンプッド長野講演会」実行委員会に参画、記録担当。
事業計画（2004年度）
1．5月総会
2．「高齢者の生き方から学ぶ」は、2002年からの課題としているので続行。
3．研修会
4．見学会（高齢者の生活の場を訪ねて、地域、施設、NPOなど）
5．他団体との交流・活動

東京支部
三浦由紀子
会員数　484名
支部会費　3000円
事業報告（2003年度）
4月19日　支部総会
記念講演「宇宙の神秘に迫る」―世界最大の望遠鏡〝すばる〟から―
講師　唐牛 宏氏（国立天文台ハワイ観測所所長）
5月　講演会「女性の目から見た激動のロシアの27年」　講師　松澤倫子氏
6月　勉強会「子育ての社会化」　田中正子会員
7月　支部会報『ともしび』発行（3月と2回）。
7月　講演会「中高年に多い肺の病気について」
講師　木田厚瑞氏
10月11・12日　全国セミナーで発表。
「ICTと子育て支援情報」
10月　見学会、江戸東京博物館
12月　第3回自然科学講演会（科学研究奨励委員会・お茶の水女子大学と共催）
「自然現象の中での秩序と無秩序について」
講師　八木 江里会員
1月10日　「新春のつどい」
国内奨学金贈呈式（国内奨学委員会・社会福祉委員会と共催、奨学金の一部として10万円寄付）
2月　講演会「女性のウェルネスを求めて」
講師　江尻美穂子会員
3月1日　国際奨学生報告会（国際奨学委員会と共催）
〈その他〉
●セミナー調査研究チーム会合（15回）
●委員会（11回）
●バザー
●サークル　英語講座、源氏物語Ⅰ・Ⅱ、楽しい俳句会、フラワーデザイン
〈対外活動〉
●サークル源氏物語を読む会Ⅰ・Ⅱより本部へ各2万円寄付。
●中野盲人自立センターへ使用済みカードと切手寄付。
●国連難民高等弁務官事務所宛5万円寄付。
事業計画（2004年度）
4月17日　支部総会
講演「女性記者走る―男性型メディアの限界に挑んで―」
講師　竹信三恵子氏
●以降の事業計画及び対外活動は、支部総会後の委員会で決定する。
●委員会及びサークル活動は、2003年度に準ずる。

神奈川支部
堀　美知子
会員数　42名
支部会費　2000円
事業報告（2003年度）
4月　支部便り『JAUWかながわ』発行（6・8月にも）。
5月31日　支部総会
講演「開花期を迎えたブロードバンド・サービスとその応用における課題―BB生活のイコール・オポチュニティを目指して―」
講師　大賀公子さん（NTT東日本　Lモード推進室長）
7・8月　全国セミナーのためのアンケート配布、集約作業。
10月11・12日　全国セミナーで発表。
11月　支部活動報告など発送。
〈その他〉
●例会、忘年会
●かながわ女性会議　NPOフォーラムに参加、発表。
事業計画（2004年度）
5月15日　支部総会で討議、決定。

静岡支部
大塚佐枝美
会員数　66名
支部会費　2000円
事業報告（2003年度）
4月26日　支部総会
講演会「女性の税と年金」
丸山 公子会員
6月　全国セミナーのための学習会開始（12回開催）。「女性SOHOスタイルの起業家とICT」をテーマに。
「ICTを使う女性起業家たち」
講師　小出宗昭氏（SOHOしずおかインキュベーションマネージャー）
7月　長泉町県立がんセンター見学。
7月　「テレワークは女性の未来を拓くか」
講師　会田和子氏（いわきテレワークセンター代表取締役社長）
7月　「私はこうして起業した―(1)、(2)」合わせて7人の女性起業家の話を聞いた。
7月　男女共同参画の日県民フェスタに参加。
ほかに女性SOHO起業家へのアンケートを行い、SOHOという働き方の実態を調査。
9月　国内奨学生を奨学委員会へ推薦。支部より図書券贈呈。
10月11・12日　全国セミナーで発表。
11月　男女共同参画センターあざれあ交流会議の地域講座で報告。
12月　セミナー報告会
1月　新年会
2月　講演会「自転車で世界一周・夢が実現・ありがとう」
講師　坂本　達氏
〈その他〉
●楽寿の園奉仕　毎月1回
●役員会　7回
●支部便り　6回
〈他団体との活動・交流〉
●静岡県女性総合センター交流会議
●ユニフェム国内会議所属
●曹洞宗国際ボランティア会
●シャプラニール―市民による海外協力の会―発展途上国女性の支援（開発教育）
●ORCHID―NEPAL支援。
事業計画（2004年度）
4月10日　支部総会

愛知支部
福永　和子
会員数　60名
賛助会員　2名
支部会費　2000円
事業報告（2003年度）
4月20日　支部総会
講演「女性の生き方と仕事」九鬼綾子氏（㈱ミックインターナショナル代表取締役）
5月　講演「2002年ノーベル文学賞受賞者イムレ・ケルテースの作品よりFatelessを中心に」
加藤万七七子氏（名古屋造形芸術大学教授）
6月　講演「環境問題と愛知支部とのかかわり」
寺田純子氏（愛知学園短期大学名誉教授）
講演「地球環境と私たちのくらし」萩原喜之氏（中部リサイクル運動市民の会代表）
7月　講演「ICTとビジネス」～新たな視点の可能性～　日紫喜友紀氏（中部起業家創造委員会リーロ主宰）
9月　講演「介護の社会はどこへ」～『支え合う』から考える～
・高間睦氏（中日新聞社活動記者）
・愛知支部ホームページ作成検討会
10月11・12日　全国セミナーで発表。
「ICTと女性情報」～地方の女性関連施設調査および女性向けサイトの分析を通して～
10月　第20回国際協力ふれあいフェスティバル2003に参加。
11月　親睦旅行（湖東二山と須賀谷温泉）
12月　平成15年度第1回名古屋市男女平等参画推進会議（イコールなごや）
1月　新年会
2月　講演「若者におけるHIV／エイズの現状と課題～今、大人にできることを考える～」
講師　柳堀朗子会員（愛知県立看護大学助教授）
〈その他〉
●支部ニュースは7回発行。
〈他団体との活動・交流〉
●名古屋国際センター国内NGO
●名古屋市男女共同参画推進会議
●エコライフ21
事業計画（2004年度）
4月18日　支部総会で詳細を決定。

岐阜支部
松井　恵美
会員数　11名
支部会費　2000円
事業報告（2003年度）
5月31日　支部総会
6月～9月　奨学生の推薦を岐阜大学に依頼―2名の推薦あり。
11月　支部研修会
岐阜労働局雇用均等室長田賀信子氏
「男女雇用機会均等法制定後の歩み」
12月　奨学生を囲むお茶会
金一封支部より贈呈。
3月　親睦昼食会
〈その他〉
『支部便り』年6回発行。
〈他団体との活動・交流〉
岐阜市男女共同参画室企画の講座・講演会等を会員に通知し、有志の参加を求めた。
事業計画（2004年度）
5月　支部総会
10月　支部研修会
3月　親睦昼食会

金沢支部
升村登美子
会員数　38名
支部会費　2000円
事業報告（2003年度）
4月　研究会　お茶と日本文化
4月　チャリティー茶会（来席者147名）
於：国際交流サロン
7月6日　支部総会
9月　敬老の日に80才以上の会員にお祝い品を贈る。
10月　小松市国際交流協会10周年記念講演会
「世界潮流の中の日本21世紀をどう生きるか」
10月　福井支部と合同研究
松任歴史散歩―生誕300年加賀の千代女の足跡を訪ねて―
11月　研究会
「辰巳用水について知ろう」
12月　「石川県手をつなぐ育成会」・「石川県肢体不自由児協会」の2団体へ寄付金を贈る。
1月25日　新年会（ブラジルの話とスライド）
3月末日　タイ＝バンコクのドゥアン・プラティープ財団へ奨学金を贈る。
〈その他〉
●支部役員会　5回
事業計画（2004年度）
●研究会（4月、11月）
●チャリティー茶会（4月）
●支部総会（7月4日）
●敬老の日にお祝い品を贈る（9月）。
●年末寄付を募り例年通りの2団体へ贈る（12月）。
●新年会（1月）
●タイへ奨学金を贈る（3月）

福井支部
山田　由美
会員数　8名
支部会費　1000円
事業報告（2003年度）
4月27日　支部総会
金沢支部チャリティ茶会に参加。
5月　青木怜子IFUW会長講演会「世界を動かす女性」（大阪支部主催）に参加。
6月　講演会「DVについて」弁護士事務所勤務中村紀久子氏
8月　IFUW決議事項について検討。
10月　金沢支部との合同例会　加賀の千代女の足跡を訪ねて（松任歴史散歩）
12月　セミナー報告とワークショップ「ウィッシュポエム」協働コーディネーター　塚本淳子氏
12月　プラティープ財団へクリスマスプレゼントを贈る。
3月　ワークショップ「事業を組み立ててみよう」
塚本淳子氏
3月　プラティープ財団へ奨学金を送金。
●定例会　7回
事業計画（2004年度）
支部総会で決定。

京都支部
廣田　輝子
会員数　62名
支部会費　2000円
事業報告（2003年度）
4月19日　支部総会
講演「イギリスのヒロイン達」―女性運動の担い手を通して見る―
講師　大学婦人協会　今井けい会長
6月　講演「絵巻に見る女のくらし」
講師　若杉準治氏（京都国立博物館学芸課企画室長）
7月　第47回総会準備委員会の企画と予算（審議および決議）
9月　「太夫のひとりごと」―島原の歴史と伝統―
講師　京都・島原花扇太さん

総会前夜の懇親会、通崎睦美さん（右）とそのグループのマリンバ演奏を聴く（4月3日）

（大阪支部8名、神戸支部2名の参加）。
11月　全国セミナー報告と第47回総会準備委員会決定事項報告。
資金調達のためフリーマーケット開催。
11月　見学会
渉成園の紅葉散策とふじひら陶芸ののぼり窯見学
1月　新年会
演題　「国際ソロプチミストの組織について」
講師　早石多喜子会員（国際ソロプチミスト アメリカ連盟会長）
シャンソン鑑賞。
3月　例会
第47回総会役割確認。
社会福祉奨学生　山本芙由美さんのスピーチ（手話通訳付）。
〈その他〉
●研修会　9回
テキスト：ジョン・ダワー「敗北を抱いて」
●研究会　全国セミナー発表の実践。
総合学習の時間を利用した京都市立宇多野小学校2年生児童とその保護者向け「読み聞かせ」。
●運営委員会　8回
●第47回総会準備委員会（定例）12回
〈他団体との活動・交流〉
5月　大阪支部主催　IFUW会長青木怜子氏講演会出席。
6月　神戸支部主催　IFUW女性の地位委員房野桂氏講演会出席。
8月　フインランド＝ラーティ支部会員ソニアさんを囲む昼食会。
10月　KYOのあけぼのフェスティバル2003：「女性副知事サミット in 京都」
1月　京都府女性団体懇話会
2月　国際婦人年京都連絡会
事業計画（2004年度）
●支部総会（4月24日）
●例会　第47回通常総会の決算報告および支部反省会（5月）ほか3回
●講演会（6、7月）
●IFUW総会出席（8月）
●見学会（11月、石清水八幡宮・松花堂）
●新年会（1月）

奈良支部
丸山　悦子
会員数　54名
支部会費　1000円
事業報告（2003年度）
4月　支部役員会
5月10日　支部総会
10月11・12日　全国セミナーで発表。
「関西圏のICT関連企業における女性の能力開発と地位向上」
9月　講演会「電磁波の人体に与える影響」
講師　荻野晃氏（京大院教授）
11月　講演会「分からないことの大切さ」
講師　鷲田 清一氏（阪大院教授）
9月　国内奨学生（一般奨学生）候補者推薦、受賞。
1月　授賞式
加藤芽里さん（奈良女子大学大学院文化研究科博士課程）
2月　国内奨学金授与式、受賞講演会、ICT発表報告など。
〈他団体との活動・交流〉
奈良県男女共同参画推進会議事業計画・実施への参加報告。
事業計画（2004年度）
支部総会（4月）
・講演会と見学会
・他機関による各種委員会への参加。
・その他

大阪支部
中川　春江
会員数　76名
支部会費　2000円
事業報告（2003年度）
5月17日　支部総会
講演会「世界を動かす女性たち～IFUWの活動を通じて～」
講師　青木怜子IFUW会長
6月　「アナウンサー33年を振り返る」講師　宮田修氏（NHK）
6月　神戸支部講演会（房野桂氏）に参加。
7月　『大阪支部便り第14号』発行。
9月　例会「難波の宮」
講師　長山雅一氏（都市史研究家）
9月　京都支部例会「太夫のひとりごと―島原の歴史と伝統―」に参加。
10月　能楽鑑賞会
11月　例会「水墨画の年賀状つくり」
1月　新年会
2月・3月　例会
次年度セミナーに向けての研修会。
事業計画（2004年度）
4月　支部総会（全国セミナーへの取り組み・支部ホームページ作成計画）

神戸支部
八尾　佳子
会員数　138名
支部会費　2000円
事業報告（2003年度）
4月26日　第54回支部総会
5月　講演と帽子工房見学「マキシンの暖簾を守って―帽子の再発見」
講師　渡邊百合氏（マキシン代表取締役）
6月　講演会「女性自身の健康と幸せは自らの手で！」房野桂氏（IFUW女性の地位委員）
7月　講演会「エイズ（HIV）蔓延をくい止めるための現状と対策」
講師　白井千香氏（公衆衛生医）
・芦屋市女性センター「講座企画募集」に応募、助成金を受ける。
9月　「高齢者ケア施設見学バスツアー」
10月11・12日　全国セミナーで発表。
「リプロダクティブ・ライツ推進のための情報リテラシー～エイズ蔓延の危機をくい止めるために～」
10月　講演会「日本とアメリカのメディアについて」　講師　米谷ふみ子

氏（芥川賞作家・アメリカ在住）
11月　講演会「国際化時代の市民の役割・異文化交流のすすめ」
1月　新春ランチパーティ「ジョバンとのひと時」
2月　講演会「冷泉家の和歌と四季」講師　冷泉貴実子氏
3月　冷泉邸・泉屋博古館見学。
〈その他〉
●役員会（毎月）、『支部だより』を発行。
●ビーナ・ロイ基金継続。（トルコに）
●読書会・ダンス同好会を実施。
●神戸支部ボランティアグループ「芦の会」活動。
〈他団体との活動・交流〉
10月　〝あしやまつり〟フリーマーケットに出店（芦屋市社会教育協議会共催）
11月　芦屋市女性センター「女性への暴力をなくす運動」街頭キャンペーン参加。
12月　「アジアの人口、水とジェンダー」国連人口基金セミナーに参加。
2月　〝神戸国際交流フェア2004〟に参加。
事業計画（2004年度）
4月　支部総会
●ビーナ・ロイ基金と同好会など従来のものは継続予定。
●会員相互の交流を深めるために月1回（8月、12月を除く）の例会を開催し、講演会等事業実施予定。

岡山支部　早津　聰子

会員数　65名
他に3名休会中
支部会費　2000円
事業報告（2003年度）
5月18日　支部総会
「岡山支部誕生の経緯について」講師　西村綏子元岡山支部長
7月　例会
講演「視聴覚障害者とインターネット」
講師　起塚英昭氏岡山県視聴覚障害者福祉センター所長
9月　全国セミナー発表準備。「ICT男女平等教育と指導者育成の現状」
講師　箕島小学校校長　真邉和美会員
10月　「地球市民フェスタ2003 in 岡山」展示会場で支部活動紹介展示。
10月11・12日　全国セミナーで発表。
10月　「外国人による日本語弁論大会」準備役員会・プログラム発送。
11月30日　第20回「外国人による日本語弁論大会」ミニバザー
12月　例会
第1部　弁論大会反省会
第2部　弁論大会出場者との懇親会
2月　ウィズセンター主催の講演会参加。
●「女性情報によるエンパワーメント戦略」尼川洋子氏（国立女性教育会館客員研究員）
●ワークショップコーディネーター　真邉和美会員
●講演後岡山支部主催の懇談会をもつ。
〈その他〉
同好会
●英語（オタワ総会の資料）を読む会
●古典（徒然草）を読む会
〈他団体との活動・交流〉
登録団体として共同活動
●ウィズセンター（岡山県男女共同参画推進センター）
●さんかく岡山（岡山市男女共同参画社会推進センター）
●岡山県国際交流協会
●岡山県国際交流団体連絡協議会
事業計画（2004年度）
4月25日　支部総会
講師　岡山市収入役　高田武子会員
8月　IFUW総会参加。
9月　募集要項・ポスター発送。
10月　「地球市民フェスタ2004 in 岡山」展示会場で支部活動紹介展示及びバザー出店。
11月28日　第21回「外国人による日本語弁論大会」ミニバザー
12月　例会及び弁論大会出場者との懇親会。
例会（6、9、12、2月）
〈その他〉
同好会
●英語を読む会
●古典を読む会
〈他団体との活動・交流〉
●ウィズセンター
●さんかく岡山
●岡山県国際交流協会
●岡山県国際交流団体連絡協議会

広島支部　山手万知子

会員数　27名
支部会費　2000円
事業報告（2003年度）
4月26日　支部総会
7月　例会（一般公開）
講演「見なおしてみませんか、あなたのコミュニケーションーアサーティヴネス論とともに―」講師　石井三恵会員（アサーティヴトレーナー）
11月　例会（一般公開）
映画鑑賞「夢は時をこえて―津田梅子が紡いだ絆」
1月　新年会
2月　例会
〈他団体との活動・交流〉
●広島市女性会議
●広島県の女性の地位と社会参加をすすめる会
●広島市女性教育センター・女性団体グループ連絡会
●すすめる会メディアモニター委員会
●電話相談（県・市）ほか
事業計画（2004年度）
5月　支部総会
支部会費　30[illegible]円
事業報告（2003年度）
5月11日　支部総会
講演「美味しさ以上のものを伝えたい」
講師　金丸佐佑子会員
9月　国際交流
講演「西洋音楽の源流」
講師　ジョジアンヌ・マス（モンペリエ第3大学教授）
11月　「茶の文化館」（八女郡星野村）見学。
3月　『クラルテ第7号』発行。
〈その他〉
●役員会（月1回）
●「クラルテ」編集委員会（7回）
●「源氏物語」講座（月2回）
〈他団体との活動・交流〉
8月　「平成15年度男女共同参画フォーラムin大分」
11月　「アイネスくらしの公開講座」
事業計画（2004年度）
1．前年度からの男女共同参画社会の実現に向けて積極的に取り組むこと。
2．異文化理解に努め、アジア、米欧諸国との交流に他機関と協力しながら努力すること。
3．会員の拡大に取り組むこと。
●詳細は、5月支部総会で決定。

山口支部　松岡　静子

会員数　8名
支部会費　2000円
事業報告（2003年度）
①会員の高齢化・退会・住所不明等。
②新入会員の増強が困難。
①・②の対応、当協会の活動意義の認識と周知努力が足りなかった。
事業計画（2004年度）
2003年度の反省から、新入会員、責任ある役員の確保・人選に努力したい。

愛媛支部

高知支部

大分支部　柏田　知子

会員数　21名
支部会費　30[illegible]円
事業報告（2003年度）
2月　福岡支部例会「福岡市立美術館その他見学」に参加。
事業計画（2004年度）
4月下旬　支部総会
4月　ボリビア会員の送別会とボリビア支援金（品）の贈呈。
9月　支部例会（研修）、ほか2月に。
12月　「NO2による大気汚染度全国一斉測定」に参加。

福岡支部　和栗　方子

会員数　44名
支部会費　3000円
事業報告（2003年度）
5月18日　支部総会
講話「育てなおしの地域臨床」田中克江会員
6月　講演会「ボリビアの歴史と現在」
講師　Ivette Revollo氏（熊本支部会員）
7月　「内科医にQ and A」
講師　藤見和代氏（内科開業医）
9月　「マレーシアにおけるシニア海外ボランティアの体験報告」児玉緑会員
11月　「米寿を祝う会」
1月　新年会とミニバザー。
「今思うこと」蒲池孝子会員
2月　福岡市美術館・NHK見学。
解説　清水榮会員
3月　気功入門。反省会。
〈他団体との活動・交流〉
9月　「第13回福岡アジア文化賞授賞式」フォーラムに出席。
10月　婦人会館フェスタ2003参加。
11月　福岡市女性センターアミカス創立15周年記念事業出席。
〈その他〉
ネパールへ奨学金を送る（2名）。
事業計画（2004年度）
5月　支部総会で決定。

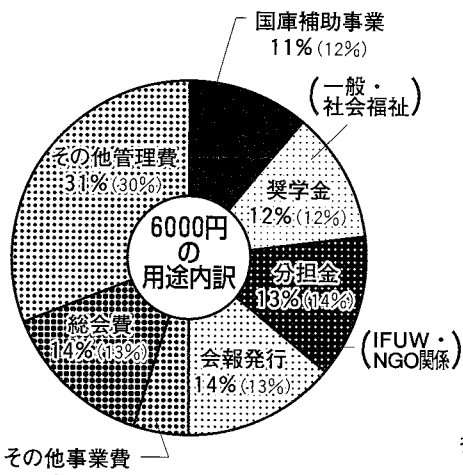
長崎支部　平野　啓子

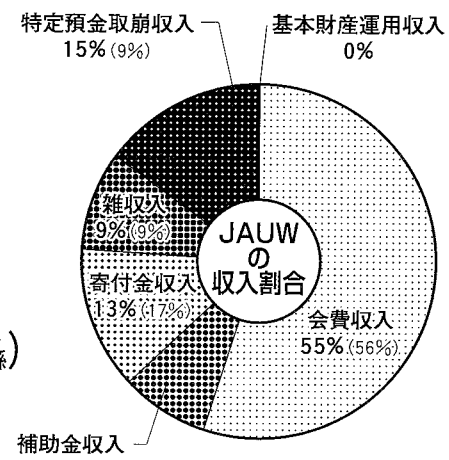
会員数　10名
支部会費　1000円
事業報告（2003年度）
●国内奨学生（一般奨学生）候補者推薦。
●定例総会　1回（5名出席）
●定例会　3回
〈他団体との活動・交流〉
●「日中文化交流事業」（ながさき女性・団体ネットワーク主催）に参加。
事業計画（2004年度）
●国内奨学生（一般奨学生）候補者推薦。
●女子学生との小規模交流会。
●定時総会・定例会（3回）
〈その他〉
●「日中文化交流事業」（ながさき女性・団体ネットワーク主催）に参画。
●各種女性団体との交流。
●会員拡大のためのPR活動。

鹿児島支部　大久保美智子

会員数　1名
支部会費

あなたの本部会費（6,000円）はこのように使われています





（　　）内は前年度の比率

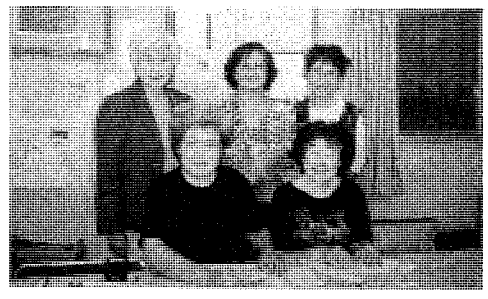
JAUWには、上記奨学金のほかに、国際奨学金・安井医学奨学金、そして科学研究奨励賞があります。

“スコットランドリポート：元ＩＦＵＷ会長ダンスモア博士をお訪ねして”

神戸支部の斉藤うめ子会員から寄せられました。ダンスモア博士（元グラスゴー大学教授・元ＩＦＵＷ会長'83～'86）は、現在、バージニア・ギルダースリーブのまとめ役もされ、パースの総会にも、出席されるとのことです。リポートの詳細は、斉藤会員（神戸支部）まで。（写真：左からダンスモア博士、斉藤会員、ＢＦＷＧ会員のガウ氏。グリノックのレストランで）

トルコからお客様

ビーナロイ・パートナーシップの相手国トルコから、ギュライ・サダンさん（トルコ大学婦人協会アンタリア支部長）が日本トルコ友好協会の招きで来日。６月７日に本部事務所を訪問されました。（写真：後列中央がサダンさん、ＪＡＵＷ事務所で）



子どもとメディア

昨年末、イタリアで、胎児が外部の刺激にどう対応するかという試みがなされ、「イタリア語の会話」の場で最も活発に反応したというニュースがあった。赤ちゃんは母胎内にいるときから、さまざまな情報を取り込んでいる可能性がある。

今年２月には、朝日新聞紙上で「テレビに頼らぬ育児」として小児科医らが、「２歳までのテレビ・ビデオ視聴は控え、授乳や食事中の視聴はやめ、すべてのメディア（ゲームも）に接触する総時間を制限し、子ども部屋にはテレビ・ビデオ・コンピューターなどの機器を置かないようにし、保護者と子どもでメディアを上手に利用するルールを作ろう」と提言している。

ＪＡＵＷ全国セミナーでは、昨年、一昨年を通して、「女性と情報社会」のテーマのもとにＩＣＴ社会の諸問題について取り組んできた。教育委員会では特に、就学以前から小学校低学年までの子どもを対象にし、子どもたちがもっとも興味を持って視聴しているテレビアニメ（メディア）の中の固定したジェンダー観から解放されるよう、大人と共に番組を見ながらメディア・リテラシーの育成に役立てるためのパンフレットを作成した。研究発表後も機会があれば各地でワークショップを行い反響を得ている。

中京大学教授三宅なほみ氏は『インターネットの子どもたち』（岩波書店、１９９７）で、学校教育における新しいコミュニケーションの導入となるインターネットの効用を実例を多く使って解説し、「……私たち大人が……、大量の情報をうまく使って、うまい使い方の方向に子どもたちを手助けすること……」が望ましい、と述べている。

氾濫する情報を胎児でいるときから感得している子どもたちがメディア・リテラシーの力を持ち、情報の発信者として、自己表現のための創造的メディア＝コンピューターを使いこなすことができるまでに育て得る環境の整備が必要であることを痛感する。（橋本慶子＝前教育委員長）

守田科学研究奨励賞受賞者論文概要

標的タンパク質を破壊する抗体酵素の発見 ～その作製法と機能～

広島県立大学生物資源学部生物資源開発学科助手
一二三（ひふみ） 恵美（専門分野：バイオテクノロジー）

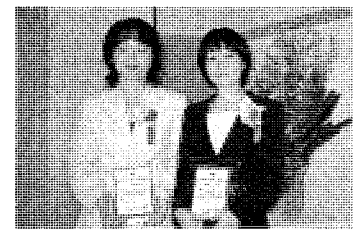
酵素は基質を他の化学物質に化学変換できるが、我々が利用できる酵素の数は無数ではない。一方、抗体は酵素のように抗原を化学変換することはできないが、どのような抗原に対しても作製できる。この両者の性能を合わせ持つ“夢のような分子”はこれまで誰も手にすることが出来なかった。

我々は、エイズウイルスの外膜タンパク gp41 に対して作製したモノクローナル抗体の化学的・免疫学的性質の解析を進める過程で、この抗体軽鎖が gp41 を特異的に分解する能力を持つことを見出した。これは、モノクローナル抗体が標的タンパク質を破壊した世界最初の例となった。そこで、この抗体を「スーパー抗体酵素」と名付けた。

その後、「スーパー抗体酵素」の普遍的作製方法の確立を目的として、新規な抗体酵素の探索、およびその遺伝子配列の解析を進めた。その結果、「スーパー抗体酵素」は bbl, crl, csl, bll, bj2, bd2 という一部の germline gene（大もとの抗体遺伝子）のみに局在することが明らかになった。これらの germline gene から生じた抗体は、いずれも Asp1, Ser27a, His93 という触媒３ツ組残基様構造を encode している。この事は、上記６種類の germline gene から生じた抗体は生まれながらにして抗原を分解する能力を持つことを意味しており、これまでの抗体の概念を打ち破るものである。

現在は、germline gene に着目する手法により「スーパー抗体酵素」の意図的な作製を試みている。①白血球上に存在する HIV に対する co-receptor（CCR５）を破壊するもの、②胃潰瘍や胃ガンの原因菌である *H. pylori* に対するもの、③インフルエンザウイルスに対するもの、などの作製に成功した。

今後は、スーパー抗体酵素の病原菌やウイルスに対する直接的な効果を調べて、新型の医薬品として展開させたい。



南極氷床内部でおこる 分子拡散と地球環境変動

独立行政法人科学技術振興機構さきがけ研究者
深澤倫（ともこ）子（専門分野：応用物理学）

南極大陸に存在する巨大な氷の結晶（氷床）は、雪と共に堆積した様々な物質を保存しているため、過去の地球環境について情報源である。氷床から掘削した氷の解析により、過去40万年間の地表温度や大気組成の変動等が調べられている。私は、氷結晶中に含まれる空気分子の挙動をミクロな視点で研究することにより、南極氷床内部でおこる分子拡散という非常に長いタイムスケールの現象を解き明かしてきた。

氷床中の過去の空気分子は、氷床の浅い部分では気泡として存在するが、深層部ではハイドレートと呼ばれる結晶に取り込まれる。私は、ラマン散乱・中性子散乱の測定により、ハイドレート中の空気分子の運動を調べた。この成果を基に、ラマン分光法によってハイドレートの分子組成を決定する定量解析法を確立した。この解析法を用いることで、南極氷床中のハイドレートの分子組成の解析に初めて成功し、氷床内部で空気分子が拡散していることを明らかにした。

氷中の分子拡散は、数十万年の時間を経た南極氷床だからこそ観測された非常に遅い現象である。従って、実験室レベルのタイムスケールでは観測された例がなく、物理的なメカニズムは全く不明だった。そこで、このメカニズムの解明を目指して、大規模な分子動力学計算を行った。この結果、空気分子が氷格子中の安定サイト間を連続して移動する過程（ホッピング）を観測することに成功した。この成果を基に、氷中の空気分子の拡散機構が従来予測されていた格子間型ではなく、空気分子が氷格子を形成する水素結合を切断することによって結晶内を移動する全く新しい機構（「結合切断機構」と名付けた）であることを明らかにした。

以上の成果を基に、現在は、南極氷床における空気分子の分布の時系列変動の数理モデルの構築に取り組んでいる。このモデルの完成により、大気組成や地表温度等、過去の地球環境の変動を極めて高い時間精度で読みとることが可能になると期待している。

《国際奨学生報告会》

記憶のメカニズムと脳の働き
―金点姫（キム ジョムヒ）さん（韓国）―

2003年度の国際奨学生金点姫さんの研究報告会が、3月1日、東京のアルカディア市ヶ谷で行われました。

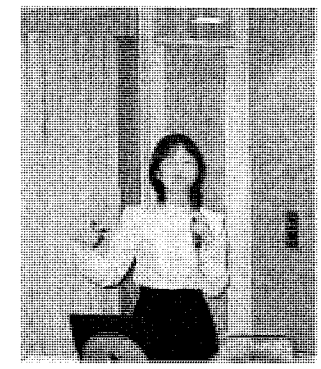
小さい時から動物好きだった金さんは獣医になるため来日。北海道大学獣医学部で勉強中、おじいさまがアルツハイマーになられたことがきっかけで人間の脳のメカニズムに興味を持ち始め、東京大学医学部博士過程に再入学、記憶・学習と脳の働きをテーマに4年目を迎えています。

「脳の重さは何gあると思いますか」流暢な日本語の質問で発表は始まり、脳の内部構造図や各部の働き等の説明が続きました。金さんの研究目的は脳におけるBrbB受容体遺伝子を介してのリン酸化の働きを明らかにすることで、我々の記憶・学習への重要な関わりを証明することです。その高度で専門的な内容は、私たちにはどこまで理解できたか些か不安の残るところですが、現在、科学分野でとても注目され、また誰も理解できていないテーマで、その意義と独創性は高いと思われます。金さんの溢れる研究心、人並みはずれた能力、忍耐心と熱意が必ずや実を結ぶように、参加者一同願わずにはいられませんでした。

発表に先立ち今井会長より、長年の懸案事項であった奨学金基金の一部取り崩し（6千万円）の許可が文科省より下りたこと、金さんに、今後JAUWの大きな橋渡しになってほしいとのご挨拶があり、国際奨学委員会としても、大変喜ばしいニュースでした。

最後に金さんの更なる研究の発展と両国の友好促進を期待して、東京支部より記念品としてスカーフが贈られました。

（国際奨学委員会　西尾　順子）



研究成果を明解に報告する金さん。パワーポイントを使い日本語で。

新入会員（27名）2004年1月～6月（理事会承認）

札幌支部
本間恵子（早）　134－0088　江戸川区西葛西５－５－６ エムエスハイム303
新潟支部
矢澤洋子（聖路）　951－8052　新潟市下大川前通
山本博子（杉野服飾）　950－0823　新潟市東中島３－８－13
茨城支部
三幣育子（共女）　301－0043　茨城県龍ヶ崎市松葉１－５－19
東京支部
芦沢紗知子（日女）　155－0033　世田谷区代田３－３－６
今村麻子（東女）　270－0135　流山市野々下３－772－52
岩田良子（日女）　155－0033　世田谷区代田３－37－４
川崎協子（茶）　338－0001　さいたま市中央区上落合2－4－2－3109
小林昭子（東）　274－0822　船橋市飯山満町３－1729－５
塩沢正子（高知女子大）　270－0101　流山市東深井773－19
帯刀章子（東薬・東京院）　206－0025　多摩市永山５－30－３－１
寺内直美（東女）　153－0051　目黒区上目黒３－28－９
中川昌子（北）　263－0024　千葉市稲毛区穴川２－７－21
星野翠（奈女）　213－0033　川崎市高津区下作延864－３
堀内洋子（津）　227－0064　横浜市青葉区川奈町50－35
峯野知子（京都薬）　114－0024　北区西ヶ原３－７－８－202
山下貞子（東女）　177－0052　東京都練馬区関町東１－９－２
結城愛子（聖）　154－0012　世田谷区駒沢１－７－21
神奈川支部
浅野春美（リンデンウッド）　108－0073　港区三田４－１－32 クレール三田301
上田芳（聖）　228－0021　座間市緑ヶ丘２－２－18－103
加古円（イースタン・ワシントン）　157－0062　世田谷区南烏山２－15－３－１３
鷲見八重子（津・院）　225－0011　横浜市青葉区あざみ野３－４－２－302
愛知支部
橋詰玲子（金城）　464－0087　名古屋市千種区清明山１－２－５
岐阜支部
小林月子（津・東北院）　502－0006　岐阜市粟野西８－183－４
福井支部
小松美枝子（日女）　915－0803　福井県武生市平出２－４－48
大阪支部
關かず子（京女）　531－0071　大阪市北区中津２－８　B－313
神戸支部
新田喜子（神女）　655－0007　神戸市垂水区多聞台３－11－19

2004年度 委員会名簿

【財務委員会】
委員長　大森たへ子
井口美登利　出田（いずた）恭子　市川知恵子　江口昌子　奥津成子　片柳洋子　加藤文子　金子京子　川田ひろ　熊切冨子　小坂順子　斉藤智恵　坂井英子　佐々木洋子　鈴木美代子　鈴木行子　住友千代子　関口瑞穂　高林益江　太刀川洋子　中山正子　中山律子　縄田眞紀子　藤谷文子　待場田鶴子　松崎和子　松村美枝子　八ツ橋宣子　山崎邦子　山村敬子

【国内奨学委員会】
委員長　鷲見（すみ）八重子
秋月薫　上野郁子　牛山通子　岡部佳世　加藤恭子　金子堯子　坂上栄美子　佐々木澄子　辻英子　林千代　平石妙子　牧久恵　松本悠子

【国際奨学委員会】
委員長　阿部幸子
有澤公　井上章子　菊池薫　楠明子　五味澄子　古山みゆき　酒葉美智子　時枝裕子　利重敦子　西尾順子　根岸愛子　早瀬暢子　平野和子　廣田貞子　宮島茂子　山中照子

【科学研究奨励委員会】
委員長　平川暁子
伊藤厚子　井上久仁子　岩村道子　大野涼　帯刀章子　熊谷晶子　小林昭子　今野美智子　時枝裕子　中川昌子　丸山庸子　室伏きみ子　八木江里

【国際委員会】
委員長　穐田（あきた）信子
青木怜子　大谷幸子　小野恭子　五味澄子　斉藤智恵　田村真知子　仲沢史子　中村ミチコ　平川敦子　平田宏子　平野和子　福田文子　房野桂　村松育子

【国内NGO委員会】
委員長　松比良節子
丸山庸子　房野桂　牧島悠美子　五十嵐康子　斉藤加代子　陣内恵子　田中トモ子　旦節子　長岡茂子　中村ミチコ　野田紀代子　松鹿光　望月浪江　矢鋪（やしき）眞澄　山瀬恵子　横橋貴子　若井綾子

【教育委員会】
委員長　牧島悠美子
有本玲子　大森たへ子　加藤恭子　川崎協子　田中正子　橋本慶子　福田文子

【女性の地位委員会】
委員長　増渕民子
海老原典子　窪田憲子　金崎芙美子　小西厚子　静間敏子　白井典子　杉森長子　鈴木伸子　高田素子　長谷文子　松浦千誉　村田鈴子　森山智可　若井綾子

【社会福祉委員会】
委員長　林千代
伊藤智恵子　遠藤加奈子　木原優子　駒木三枝子　鈴木光子　玉井美枝子　長岡茂子　中平玲子　中山律子　野崎方子　望月浪江　吉原雅子

【広報委員会】
委員長　松本佳子
尾上夏子　河井尚子　黒川花子　小池朋子　小西厚子　鈴木光子　日置（ひき）恵子　福士仁三代　藤田典子　百束礼子　山崎邦子　鷲崎千春

【会員委員会】
委員長　三浦由紀子
秋月薫　磯村明子　菊地晴子　後藤晶子　庄司ヨシ　西田節子　橋本津栄子　長谷川千恵子　福田満代　堀口裕子　三浦久子　溝渕ひろ子　三森紀子　村松育子　山下靖子　吉村光代

【情報委員会】
委員長　福田満代
有本玲子　井口美登利　遠藤理枝　大谷幸子　岡部佳世　駒木三枝子　斉藤加代子　関口瑞穂　高田素子　野田紀代子　藤谷文子　百束礼子

第6回 大学婦人協会 守田科学研究奨励賞 贈呈式

科学研究奨励委員会委員長　平川暁子

第6回守田科学研究奨励賞の贈呈式が5月8日アルカディア市ヶ谷で行われた。受賞者は、広島県立大学生物資源学部助手の一二三恵美博士（バイオテクノロジー）と、独立行政法人科学技術振興機構さきがけ研究者の深澤倫子博士（応用物理学）である。

贈呈式のあと、一二三博士による「標的タンパク質を破壊する抗体酵素の発見―その作製法と機能」、深澤博士による「南極氷床内部で起こる分子拡散と地球環境変動」の受賞講演が行われた。

一二三博士は1986年に山口大学医療技術短期大学部を卒業、臨床検査技師免許を取得し、宇部興産(株)中央研究所研究員を経て、1993年に広島県立大学生物資源学部生物資源開発学科の助手となり現在に至っている。その間2001年に九州大学より工学博士の学位を受けた。

深澤博士は1994年に北海道大学工学部応用物理学科を卒業後、同大学院の修士課程を応用物理学専攻、博士課程を量子物理学専攻で修了し、1999年北海道大学より工学博士の学位を受けた。その後、学術振興会特別研究員を経て、科学技術振興事業団（現在、独立行政法人科学技術振興機構）さきがけの研究者として研究を進めている。大学院博士課程在学中から現在まで8回にわたり、フランス、イギリス、アメリカで在外研究を行ってこられた。

一二三博士の抗体酵素の発見は、従来の生化学の常識を破る実験結果として容易に受け入れられなかったものを、慎重で粘り強い実験の積み重ねにより確実なものとした成果であり、新しい医薬の創製にも貢献すると期待される。深澤博士は本奨励賞受賞者中の最年少であるが、短い研究経歴の間に基礎研究法を南極氷床の履歴の解明に役立てる方法を開拓し、幅広い視点から地球環境研究に取り組んでおり、将来の更なる発展が期待される。

当日は、受賞者の上司・共同研究者多数が出席され、諸大学・諸学会よりご参会をいただき、過去の受賞者3名と多数の会員諸姉のご参加を得て出席者70名の盛会であった。

賞贈呈式（5月8日）左から平川委員長、深澤博士、今井会長、一二三博士、島前委員長

第7回大学婦人協会守田科学研究奨励賞

受賞候補者募集要項

趣旨：本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。

対象：自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満（応募締切日現在）の女性科学者を対象としています。

授賞件数：年2件以内
賞状および副賞50万円を贈呈します。

提出書類：1．推薦状　2．履歴書(写真添付)
3．研究業績リスト
4．主要な論文別刷5編以内　それぞれ3部（コピーでも可）
5．研究題目とその概要および今後の展望と抱負を記したもの（A4版2頁以内）

応募締切日：2004年11月30日(火)（必着）

書類送付先および連絡先：社団法人　大学婦人協会
〒160-0017　東京都新宿区左門町11番地6の101
TEL：03-3358-2882　FAX：03-3358-2889

2004年度　大学婦人協会国内奨学生募集要項

Ⅰ　応募資格

一般奨学生　文部科学省の認可する大学の大学院に1年以上在籍する女子学生で、人物・学業ともに優れた者。なお、一般奨学生のうち女性、教育、国際協力に関する研究をしている学生1名は、本協会の設立に寄与されたルル・ホームズ氏を記念してホームズ奨学生と呼ぶ。

社会福祉奨学生　文部科学省の認可する大学（短期大学を除く）の学部・大学院に在籍する女子学生で、身体に障害があり、かつ人物・学業ともに優れた者。

安井医学奨学生　医学あるいは薬学などを専攻する大学院に2年以上在籍する女子大学院生で、人物・学業ともに優れた者。なお、本協会の会員であるか、または授与の時までに会員になること。

Ⅱ　奨学金支給額（年額）及び募集人員

一般奨学生	大学院生	1名につき	20万円	6名（ホームズ奨学生を含む）
社会福祉奨学生	学部生	1名につき	10万円	学部生、大学院生あわせて3名以下とする。
	大学院生	1名につき	20万円	
安井医学奨学生	大学院生	1名につき	30万円	1名

備考　(1)　応募状況により奨学生の人数に多少変更もありうる。
(2)　奨学金のうち10万円は本協会東京支部からの寄付による。

Ⅲ　提出書類
(1)　履歴書（市販B4版のもの、写真貼付、自筆のこと）
(2)　大学婦人協会所定の奨学金交付調書（記入者は在学する大学の学長・学部長・学科長・指導教員のいずれかであること）
(3)　在学する大学の交付する学業成績証明書
(4)　小論文（下記のそれぞれの課題を1200字〔A4判　横書　40字×30行〕以内にまとめること）
一般奨学生（大学院生）および社会福祉奨学生：
学部生　自分の専攻分野と将来の希望について
大学院生　修士論文または博士論文の計画と将来の希望について
安井医学奨学生：
大学院生　自分の専攻分野と将来の展望について
(5)　所定の「身体障害状況」と障害者手帳の写し（社会福祉奨学生のみ）

Ⅳ　応募手続
応募者は、必要書類を所属大学の学長に提出すること。

Ⅴ　出願締切日
2004年9月10日(金)までに、東京都・千葉県・埼玉県及び沖縄県の大学は本協会本部に、その他の地域の大学は当該支部に書類を提出すること（当日消印有効）。

Ⅵ　選考方法
支部長宛に提出された書類は支部会で選考して、2名以上の場合は順位をつけて本部に提出する。
本部においては、提出された全ての書類を選考委員会で選考し、その結果を理事会に諮って決定する。
選考の結果は、推薦支部長、本人の在学する大学学長、および本人に通知する。

Ⅶ　一般奨学金、安井医学奨学金を授与された者は1年以内に本協会会長宛に研究成果の報告書を提出すること。

Ⅷ　その他
(1)　贈呈式は2005年1月初旬の予定（詳細は後日通知する）。
(2)　不明の点については本部に照会のこと。

社団法人　大学婦人協会
会長　今井けい
国内奨学委員長　鷲見八重子
社会福祉委員長　林千代
〒160－0017 東京都新宿区左門町11番地6の101
TEL 03－3358－2882　FAX 03－3358－2889
http://www.jauw.org　e-mail:jauw@tky2.3web.ne.jp

平成15年度国庫補助事業

特別会計収支決算報告

特別会計：大森たへ子　市川知恵子　小坂順子　（単位：円）

収入の部

区分	予算額	決算額	備考
国庫補助金	1,291,000	1,291,000	
協会支出金	1,581,411	1,330,000	
セミナー参加費	450,000	459,000 14,000	3,000×153 2,000×7
懇親会費	480,000	488,000	4,000×122
銀行利息	100	3	
計	3,802,511	3,582,003	

支出の部

区分	科目	予算額	決算額	備考
補助対象経費	謝金	178,888	181,108	本部パネリスト　3名 支部・講演会講師　5名
	旅費	583,000	543,200	パネリスト、企画・実行委員支部長、レポーター
	借損料	124,650	145,490	企画・実行委員会会場費、支部・委員会会場費
	消耗品費	194,213	198,005	事務用品、書籍、ワープロ用紙、リボン、テープ
	印刷製本費	598,000	573,075	セミナー要項、プログラム報告書、報告書発送用封筒
	通信運搬費	697,960	646,267	支部・委員会連絡、セミナー報告書発送
	会議費	284,800	247,885	本部・支部・委員会会議費
	賃金	318,000	269,790	ワープロ入力、テープ起こし アンケート集計
	雑役務費	325,000	272,288	コピー代、現像代、プリント代
	小計	3,304,511	3,077,108	
その他	懇親会費	480,000	488,000	4,000×122
	雑役務費	8,000	6,895	振込手数料
	賛助会費	10,000	10,000	(財)全日本社会教育連合会
	小計	498,000	504,895	
	計	3,802,511	3,582,003	

※特別会計収支報告について
セミナー参加費、銀行利息等は直接特別会計で扱ったもので、本部会計には含まれません。
支出のうち、9支部の調査研究費は394,488円、4委員会の調査研究費は、276,998円でした。
ご協力くださった支部、委員会にあらためて感謝いたします。

○監査報告　監査の結果、収入・支出ともにすべて正しく記録され、間違いのないことを証明致します。

平成16年3月25日

監事　根岸愛子　静間敏子

＜理事会から＞

●平成15年度寄付者（敬称略）

2万円以上

・個人　今井けい　植原映子　海老根静江　坂上栄美子　鈴木行子　匿名希望2名

・グループ　・理事・監事有志（10名）　・財務委員会有志（25名）
・国内奨学委員会有志

その他　支部長（群馬、栃木、長野）
新春のつどい出演者（煌の会・松井　直美）
フラワーデザイン（東京支部）

●若手会員育成金（20万円）を、広島支部の石井三恵会員ほか3名のグループに。

●5月11日、国際婦人年連絡会主催の「イラクに平和を！　女性たちの平和集会」にJAUWから17名が参加。アピール文を、内閣総理大臣・外務大臣・防衛庁長官・衆参両院議長・マスコミ各社（24社）に送付。（国内NGO委員会）

●第17回サロンJ（6月8日）
「若い会員をどのようにして増やすか―オーストラリアYWCAに学ぶ」（江尻美穂子会員）。JAUWの現状と展望を巡って、有意義な時間が持たれた。（会員委員会）

●JAUWのHP（ホームページ）を刷新。
PC（パソコン）講習会にご参加を。（情報委員会）

●会報に掲載する広告に苦慮しています。情報をお知らせください。（広報委員会）
支部の話題を募集。

2003年度　社団法人 大学婦人協会収支決算報告書及び貸借対照表

収支計算書

(2003年4月1日から2004年3月31日まで)

(単位:円)

科目	補正予算額	決算額	差異	備考
Ⅰ 収入の部				
1 基本財産運用収入	50,500	29,944	20,556	
基金口座利息				
事業基金利息	30,000	21,397	8,603	
ホームズ基金利息	500	19	481	
国際奨学金基金利息	20,000	8,528	11,472	
2 入会金収入	100,000	58,000	42,000	
入会金	100,000	58,000	42,000	累計 58口
3 会費収入	9,690,000	8,784,000	906,000	
正会員会費収入	9,600,000	8,712,000	888,000	累計 1,452口
賛助会員会費収入	90,000	72,000	18,000	累計 12口
4 補助金収入	1,500,000	1,291,000	209,000	
国庫補助金収入	1,500,000	1,291,000	209,000	
5 寄付金収入	1,800,000	2,134,870	△334,870	東京支部より 100,000円 財務委員会より(個人寄付を含む) 1,670,000円 エアコン指定寄付 310,000円 その他 54,870円
会員その他寄付	1,800,000	2,134,870	△334,870	
6 雑収入	1,549,000	1,532,696	16,304	
受取利息				
運用財産利息	4,000	1,309	2,691	
審査手数料	0	0	0	
広告料収入	200,000	200,000	0	
総会参加費	690,000	641,000	49,000	
雑収入				
分担金	505,000	487,090	17,910	東京支部より管理費分担
名簿	0	0	0	
私用電話他	150,000	203,297	△53,297	
7 特定預金取崩収入	3,170,000	2,361,687	808,313	
安井医学奨学金	310,000	300,000	10,000	
守田科学研究奨励金	1,260,000	1,259,902	98	
若手会員育成金	1,000,000	200,525	799,475	
国際奨学金	600,000	601,260	△1,260	
ホームズ奨学金	0	0	0	
A 当期収入合計	17,859,500	16,192,197	1,667,303	
B 前期繰越収支差額	10,000,000	10,863,404	△863,404	
C 収入合計(A+B)	27,859,500	27,055,601	803,899	

(単位:円)

科目	補正予算額	決算額	差異	備考
Ⅱ 支出の部				
1 事業費	12,185,000	10,577,427	1,607,573	
国庫補助事業	3,000,000	2,621,000	379,000	
奨学金			0	
国内奨学金	1,200,000	1,200,000	0	20万円 6名
社会福祉奨学金	400,000	300,000	100,000	20万円1名・10万円1名
贈呈式参加費	100,000	70,000	30,000	
国際奨学金	600,000	601,260	△1,260	50万円 1名
ホームズ奨学金	0	0	0	
安井医学奨学金	310,000	300,000	10,000	30万円 1名
守田科学研究奨励金	1,260,000	1,259,902	98	50万円 2名
若手会員育成金	1,000,000	200,525	799,475	
分担金				
IFUW・UWA会費	1,500,000	1,614,202	△114,202	1名につき12スイスフラン
IFUW関係連絡費	100,000	0	100,000	
NGOその他	45,000	45,000	0	
助成金				
IFUW寄付金	100,000	56,500	43,500	ビーナ・ロイPID基金
支部振興費	85,000	59,200	25,800	
各委員会活動費	580,000	514,874	65,126	
図書・資料	5,000	0	5,000	
印刷製本費				
名簿発行	0	0	0	
会報発行	1,500,000	1,425,900	74,100	会報4回
通信運搬費	400,000	309,064	90,936	
2 管理費	5,981,200	5,682,376	298,824	
給料・手当他				
給料・夏・冬手当	1,930,000	1,783,745	146,255	
法定福利費	310,000	266,415	43,585	社会保険・労働保険
会議費				
総会費	1,830,000	1,812,950	17,050	
理事会費	3,000	3,000	0	
役員選考委員会費	3,000	2,400	600	
旅費交通費	80,000	81,840	△1,840	
通信運搬費	200,000	260,180	△60,180	
什器備品費	400,000	297,780	102,220	エアコン購入
消耗品費	400,000	331,027	68,973	
印刷製本費	50,000	57,237	△7,237	
負担金	325,200	325,200	0	
水道光熱費	150,000	120,472	29,528	
諸謝金	120,000	120,000	0	公認会計士謝礼
租税公課	130,000	168,500	△38,500	固定資産税
雑費	50,000	51,630	△1,630	
3 繰入金支出	1,600,000	1,565,059	34,941	
事業基金繰入	0	0	0	
退職給与積立金繰入	100,000	0	100,000	
国際奨学金積立金繰入	1,200,000	1,254,698	△54,698	
ホームズ奨学金積立金繰入	300,000	310,361	△10,361	
4 予備費	100,000	0	100,000	
D 当期支出合計	19,866,200	17,824,862	2,041,338	
E 当期収支差額(A−D)	△2,006,700	△1,632,665	△374,035	
F 次期繰越収支差額(C−D)	7,993,300	9,230,739	△1,237,439	

貸借対照表

2004年3月31日現在

(単位:円)

科目	金額		
Ⅰ 資産の部			
1 流動資産			
現金	108,593		
普通預金	3,256,561		
定期預金	5,350,000		
郵便振替	515,585		
流動資産合計		9,230,739	
2 固定資産			
基本財産			
事業基金	44,600,000		
ホームズ基金	2,000,000		
国際奨学金基金	40,000,000		
基本財産合計	86,600,000		
その他の固定資産			
特定預金			
国際奨学金	20,653,232		
安井医学奨学金	7,139,477		
守田科学研究奨励金	20,642,702		
ホームズ奨学金	310,152		
若手会員育成金	6,764,132		
土地・建物	52,000,000		
什器・備品	500,000		
電話加入権	100,000		
その他の固定資産合計	108,109,695		
固定資産合計		194,709,695	
資産合計			203,940,434
Ⅱ 負債の部			
1 流動負債			
流動負債合計		0	
2 固定負債			
固定負債合計		0	
負債合計			0
Ⅲ 正味財産の部			
正味財産			203,940,434
(うち基本金)			(86,600,000)
(当期正味財産減少額)			(2,410,801)
負債及び正味財産合計			203,940,434

○監査報告　監査の結果、収入・支出ともにすべて正しく記録されており間違いないことを認めます。

平成16年4月1日　監事　根岸　愛子　静間　敏子

2004年度　社団法人 大学婦人協会収支予算書

(2004年4月1日から2005年3月31日まで)

(単位:円)

科目	予算額	前年度補正予算額	増減(△)	備考
Ⅰ 収入の部				
1 基本財産運用収入	20,200	50,500	△30,300	
基金口座利息				
事業基金利息	10,000	30,000	△20,000	
ホームズ基金利息	200	500	△300	
国際奨学金基金利息	10,000	20,000	△10,000	
2 入会金収入	80,000	100,000	△20,000	
入会金	80,000	100,000	△20,000	¥1,000×80名
3 会費収入	9,090,000	9,690,000	△600,000	
正会員会費収入	9,000,000	9,600,000	△600,000	¥6,000×1500口
賛助会員会費収入	90,000	90,000	0	¥6,000×15口
4 補助金収入	1,100,000	1,500,000	△400,000	
国庫補助金収入	1,100,000	1,500,000	△400,000	
5 寄付金収入	1,350,000	1,800,000	△450,000	
会員その他寄付	1,350,000	1,800,000	△450,000	含 東京支部指定寄付10万
6 雑収入	1,512,000	1,549,000	△37,000	
受取利息				
運用財産利息	2,000	4,000	△2,000	
審査手数料	0	0	0	
広告料収入	150,000	200,000	△50,000	
総会参加費	690,000	690,000	0	¥3,000×230名
雑収入				
分担金	570,000	505,000	65,000	東京支部管理費分担
名簿	0	0	0	
私用電話他	100,000	150,000	△50,000	
7 特定預金取崩収入	4,570,000	3,170,000	1,400,000	
安井医学奨学金	310,000	310,000	0	
守田科学研究奨励金	1,260,000	1,260,000	0	
若手会員育成金	1,000,000	1,000,000	0	
国際奨学金	2,000,000	600,000	1,400,000	
ホームズ奨学金	0	0	0	
A 当期収入合計	17,722,200	17,859,500	△137,300	
B 前期繰越収支差額	10,000,000	10,000,000	0	
C 収入合計(A+B)	27,722,200	27,859,500	△137,300	

科目	予算額	前年度補正予算額	増減(△)	備考
Ⅱ 支出の部				
1 事業費	12,755,000	12,185,000	570,000	
国庫補助事業	2,300,000	3,000,000	△700,000	
奨学金				
国内奨学金	1,200,000	1,200,000	0	¥200,000×6名
社会福祉奨学金	300,000	400,000	△100,000	
贈呈式参加費	100,000	100,000	0	
国際奨学金	2,000,000	600,000	1,400,000	¥1,000,000×2名
ホームズ奨学金	0	0	0	
安井医学奨学金	310,000	310,000	0	¥300,000×1名
守田科学研究奨励金	1,260,000	1,260,000	0	¥500,000×2名
若手会員育成金	1,000,000	1,000,000	0	
分担金				
IFUW・UWA会費	1,500,000	1,500,000	0	1名につき12スイスフラン
IFUW関係連絡費	100,000	100,000	0	
NGOその他	45,000	45,000	0	
助成金				
IFUW寄付金	100,000	100,000	0	ビーナ・ロイPID基金
支部振興費	85,000	85,000	0	
各委員会活動費	550,000	580,000	△30,000	
図書・資料	5,000	5,000	0	
印刷製本費				
名簿発行	0	0	0	
会報発行	1,500,000	1,500,000	0	会報4回
通信運搬費	400,000	400,000	0	
2 管理費	5,256,700	5,981,200	△724,500	
給料・手当他				
給料・夏・冬手当	1,930,000	1,930,000	0	
法定福利費	310,000	310,000	0	社会保険・労働保険
会議費				
総会費	1,400,000	1,830,000	△430,000	
理事会費	3,000	3,000	0	
役員選考委員会費	0	3,000	△3,000	
旅費交通費	60,000	80,000	△20,000	
通信運搬費	200,000	200,000	0	
什器備品費	100,000	400,000	△300,000	
消耗品費	400,000	400,000	0	
印刷製本費	40,000	50,000	△10,000	
負担金	325,200	325,200	0	
光熱水料金	150,000	150,000	0	
諸謝金	120,000	120,000	0	会計士謝礼
租税公課	168,500	130,000	38,500	固定資産税
雑費	50,000	50,000	0	
3 繰入金支出	50,000	1,600,000	△1,550,000	
事業基金繰入	0	0	0	
退職給与積立金繰入	30,000	100,000	△70,000	
国際奨学金積立金繰入	10,000	1,200,000	△1,190,000	基本金利息・指定寄付
ホームズ奨学金積立金繰入	10,000	300,000	△290,000	基本金利息・指定寄付
4 予備費	100,000	100,000	0	
D 当期支出合計	18,161,700	19,866,200	△1,704,500	
E 当期収支差額(A−D)	△439,500	△2,006,700	1,567,200	
F 次期繰越収支差額(C−D)	9,560,500	7,993,300	1,567,200	